

2016年度 自己点検・評価結果

基準4-1 教育内容・方法・成果

(教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

文学部・文学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-1-1U	【学部】 「教育研究上の目的」を踏まえた卒業要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが学科ごとに設 定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【学部】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.5.5)	文学部ホームページ、各学科ディプロマポリシー http://www.aoyama.ac.jp/faculty/literature/ 確認日:(2016.5.5)	年度初め
	4-1-1M	【修士・博士前期】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.5.21)		年度初め
	4-1-1D	【博士後期・一貫制博士】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.5.21)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-1-2U	【学部】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが学科ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【学部】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.5.29)		年度初め
	4-1-2M	【修士・博士前期】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.5.21)		年度初め
	4-1-2D	【博士後期・一貫制博士】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	×	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.5.21)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-1-3U	【学部】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○	大学ホームページ「教育方針等」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ 確認日:(2016.5.29)	文学部ホームページ、各学科ホームページ http://www.aoyama.ac.jp/faculty/literature/ 確認日:(2016.5.29) 学科パンフレット	年度初め
	4-1-3M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○	大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_literature/japanese/policy.html#anchor_diplomapolicy 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.5.30)		年度初め
	4-1-3D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○	大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_literature/japanese/policy.html#anchor_diplomapolicy 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.5.30)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	4-1-4U	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	×	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.5.29) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016.5.29) 【学生】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.5.29)		年度初め
	4-1-4M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.5.19) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016.5.19) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016.5.19)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-4D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.5.19) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
curriculum.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016.5.19) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) <a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht
ml">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016.5.19)		年度初め
	4-1-5U1	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあた り、会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号および第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-1-5M1	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあた り、会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号および第3号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-1-5D1	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	×		【博士後期・一貫制博士】 関連規則等 検証会議体()	年度初め
	4-1-5U2	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	×	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会	日本文学科:分科会議事録第10、13、16回 史学科:分科会などで協議。議事録第5、6、11回 検証会議体:(学科分科会)	年度末
	4-1-5M2	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	×	【修士・博士前期】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-1-5D2	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	×		【博士後期・一貫制博士】 議題、議事録等 検証会議体()	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-1-6U	<p>【学部】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○	<p>大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日:(2016.5.29)</p>		年度初め
	4-1-6M	<p>【修士・博士前期】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○	<p>大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html (2016.5.30)</p>		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-6D	<p>【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○	<p>大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html (2016.5.30)</p>		年度初め
	4-1-7U	<p>【学部】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○	<p>大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.5.29)</p>		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	4-1-7M	<p>【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.5.30)</p>		年度初め
	4-1-7D	<p>【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○	<p>【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.5.30)</p>		年度初め

教育人間科学部・教育人間科学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
教育人間科学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-1（教育内容・方法・成果_教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(1)	4-1-1U	【学部】 「教育研究上の目的」を踏まえた卒業要件 (※)等が明確なディプロマポリシーが学科 ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、 その達成のための諸要件	2016	○	【学部】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日：(2016/5/5)		年度初め
	4-1-1M	【修士・博士前期】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件 (※)等が明確なディプロマポリシーが専攻 および課程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、 その達成のための諸要件	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日：(2016.05.07)		年度初め
	4-1-1D	【博士後期・一貫制博士】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件 (※)等が明確なディプロマポリシーが専攻 および課程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、 その達成のための諸要件	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日：(2016.05.07)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
教育人間科学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-1（教育内容・方法・成果_教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-1-2U	【学部】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが学科ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	×	【学部】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日：(2016/5/5)		年度初め
	4-1-2M	【修士・博士前期】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	×	【修士・博士前期】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日：(2016.05.07)		年度初め
	4-1-2D	【博士後期・一貫制博士】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	×	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日：(2016.05.07)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
教育人間科学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-1（教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(3)	4-1-3U	【学部】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシー は相互に関連した内容になっていますか。	2016	○		【学部】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日：(2016/5/5) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日：(2016/5/5)	年度初め
	4-1-3M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシー は相互に関連した内容になっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日：(2016.05.07) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日：(2016.05.07)		年度初め
	4-1-3D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシー は相互に関連した内容になっていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日：(2016.05.07) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日：(2016.05.07)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
教育人間科学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-1（教育内容・方法・成果_教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(4)	4-1-4U	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリ シーが公的な刊行物、ホームページ等によっ て、教職員・学生ならびに受験生を含む社会 一般に対して周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日：(2016/5/5) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日：(2016/5/5) 【学生】 大学ホームページ「授業要覧（履修ガイド）」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日：(2016/5/5)		年度初め
	4-1-4M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリ シーが公的な刊行物、ホームページ等によっ て、教職員・学生ならびに受験生を含む社会 一般に対して周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日：(2016.05.07) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日：(2016.05.07) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日：(2016.05.07)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
教育人間科学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-1（教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
	4-1-4D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリ シーが公的な刊行物、ホームページ等によっ て、教職員・学生ならびに受験生を含む社会 一般に対して周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日：(2016.05.07) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日：(2016.05.07) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日：(2016.05.13)		年度初め
	4-1-5U1	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリ シーの内容の適切性や相互の連関を検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明 文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号および第3号 検証会議体:教授会		年度初め
	4-1-5M1	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリ シーの内容の適切性や相互の連関を検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明 文化されていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号および第3号 検証会議体:研究科教授会		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
教育人間科学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-1（教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時 期
(5)	4-1-5D1	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、会議体（委員会等）・手続きが明文化されていますか。	2016	×			年度初め
	4-1-5U2	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの内容の適切性や相互の連関は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体：教授会	【学部】 第19回教育人間科学部教授会資料(2017年3月10日開催)	年度末
	4-1-5M2	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの内容の適切性や相互の連関は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体：研究科教授会	【修士・博士前期】 第19回教育人間科学部教授会資料(2017年3月10日開催)	年度末
	4-1-5D2	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの内容の適切性や相互の連関は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【博士後期】 検証会議体：研究科教授会 【一貫制博士】 検証会議体：研究科教授会 検証会議体：研究科教授会	【修士・博士前期】 第19回教育人間科学部教授会資料(2017年3月10日開催)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
教育人間科学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-1（教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針）

SG	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(6)	4-1-6U	<p>【学部】 ディプロマポリシーは適切ですか（※）。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー（学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等）の要請にあっているか。 ・自己点検・評価（チェックリスト）を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方（3ポリシー修正マニュアル参照）の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め
	4-1-6M	<p>【修士・博士前期】 ディプロマポリシーは適切ですか（※）。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー（学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等）の要請にあっているか。 ・自己点検・評価（チェックリスト）を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方（3ポリシー修正マニュアル参照）の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
教育人間科学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-1（教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
	4-1-6D	<p>【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め
	4-1-7U	<p>【学部】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
教育人間科学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-1（教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(7)	4-1-7M	<p>【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め
	4-1-7D	<p>【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め

経済学部・経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(1)	4-1-1U	【学部】 「教育研究上の目的」を踏まえた卒業要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが学科ごとに設 定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【学部】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016/6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-1-1M	【修士・博士前期】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016/6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-1-1D	【博士後期・一貫制博士】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016/6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-1-2U	<p>【学部】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが学科ごとに設定されていますか(※2)。</p> <p>※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可</p>	2016	○	<p>【学部】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016/6/4)</p>	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-1-2M	<p>【修士・博士前期】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。</p> <p>※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016/6/4)</p>	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-1-2D	<p>【博士後期・一貫制博士】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。</p> <p>※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可</p>	2016	○	<p>【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016/6/4)</p>	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-1-3U	【学部】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-1-3M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-1-3D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	4-1-4U	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016/6/4) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
curriculum.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016/6/4) 【学生】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (16 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-1-4M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
diploma.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016/6/4) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
curriculum.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016/6/4) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (16 年度) <a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht
ml">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016/6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-4D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016/6/4) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016/6/4) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (16 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016/6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-1-5U1	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用が行われており、それ が規範として確立している。	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-1-5M1	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用が行われており、それ が規範として確立している。	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(5)	4-1-5D1	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用が行われており、 それが規範として確立している。	【博士後期・一貫制博士】 関連規則等 検証会議体(6/8学部自己点検委員会)	年度初め
	4-1-5U2	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用が行われており、 それが規範として確立している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議 事録	年度末
	4-1-5M2	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用が行われており、 それが規範として確立している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議 事録	年度末
	4-1-5D2	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用が行われており、 それが規範として確立している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議 事録	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
	4-1-6U	<p>【学部】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め
(6)	4-1-6M	<p>【修士・博士前期】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
	4-1-6D	<p>【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-1-7U	<p>【学部】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(7)	4-1-7M	<p>【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-1-7D	<p>【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め

法学部・法学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-1-1U	【学部】 「教育研究上の目的」を踏まえた卒業要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが学科ごとに設 定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【学部】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.04.01.)		年度初め
	4-1-1M	【修士・博士前期】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.04.01.)		年度初め
	4-1-1D	【博士後期・一貫制博士】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.04.01.)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-1-2U	【学部】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが学科ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【学部】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.04.01.)		年度初め
	4-1-2M	【修士・博士前期】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.04.01.)		年度初め
	4-1-2D	【博士後期・一貫制博士】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.04.01.)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-1-3U	【学部】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に連関した内容になっていますか。	2016	○			年度初め
	4-1-3M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に連関した内容になっていますか。	2016	○			年度初め
	4-1-3D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に連関した内容になっていますか。	2016	○			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	4-1-4U	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.04.01.) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
curriculum.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016.04.01.) 【学生】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.04.01.)		年度初め
	4-1-4M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
diploma.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.04.01.) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
curriculum.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016.04.01.) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) <a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht
ml">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016.04.01.)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-4D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.04.01.) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016.04.01.) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016.04.01.)		年度初め
	4-1-5U1	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあた り、会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号および第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-1-5M1	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあた り、会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号および第3号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-1-5D1	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	×		【博士後期・一貫制博士】 関連規則等 検証会議体()	年度初め
	4-1-5U2	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	×	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-1-5M2	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	×	【修士・博士前期】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-1-5D2	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	×		【博士後期・一貫制博士】 議題、議事録等 検証会議体()	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-1-6U	<p>【学部】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め
	4-1-6M	<p>【修士・博士前期】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-6D	<p>【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め
	4-1-7U	<p>【学部】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	4-1-7M	<p>【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め
	4-1-7D	<p>【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

経営学部・経営学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-1-1U	【学部】 「教育研究上の目的」を踏まえた卒業要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが学科ごとに設 定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【学部】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
	4-1-1M	【修士・博士前期】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
	4-1-1D	【博士後期・一貫制博士】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日:(2016年6月7日)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-1-2U	【学部】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが学科ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【学部】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
	4-1-2M	【修士・博士前期】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
	4-1-2D	【博士後期・一貫制博士】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016年6月7日)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-1-3U	【学部】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○			年度初め
	4-1-3M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○			年度初め
	4-1-3D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	4-1-4U	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日:(2016年6月7日) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016年6月7日) 【学生】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
	4-1-4M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日:(2016年6月7日) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016年6月7日) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年6月7日))		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-4D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日:(2016年6月7日) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016年6月7日) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
	4-1-5U1	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号および第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-1-5M1	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号および第3号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-1-5D1	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号および第3号 検証会議体: 研究科教授会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-1-5U2	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	×	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体: 教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-1-5M2	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	×	【修士・博士前期】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会	【修士・博士前期】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-1-5D2	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	×		【博士後期・一貫制博士】 議題、議事録等 検証会議体()	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-6U	<p>【学部】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め
(6)	4-1-6M	<p>【修士・博士前期】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-6D	<p>【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め
	4-1-7U	<p>【学部】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	4-1-7M	<p>【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め
	4-1-7D	<p>【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

国際政治経済学部・国際政治経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-1-1U	【学部】 「教育研究上の目的」を踏まえた卒業要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが学科ごとに設 定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」(1)-(3)頁 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/pdf/sipec_2016.pdf 確認日:(2016/5/17)		年度初め
	4-1-1M	【修士・博士前期】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【修士・博士前期】		年度初め
	4-1-1D	【博士後期・一貫制博士】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【博士後期・一貫制博士】		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-1-2U	【学部】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが学科ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」(1)-(3)頁 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/pdf/sipec_2016.pdf 確認日:(2016/5/17)		年度初め
	4-1-2M	【修士・博士前期】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	×	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/pdf/graduate_2016.pdf 確認日:(2016/5/17)		年度初め
	4-1-2D	【博士後期・一貫制博士】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	×	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/pdf/graduate_2016.pdf 確認日:(2016/5/17)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-1-3U	【学部】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」(1)-(3)頁 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/pdf/sipec_2016.pdf 確認日:(2016/5/17)		年度初め
	4-1-3M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○			年度初め
	4-1-3D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	4-1-4U	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」(1)-(3)頁 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/pdf/sipec_2016.pdf 確認日:(2016/5/17)		年度初め
	4-1-4M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】		年度初め
	4-1-4D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-1-5U1	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号および第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等:2016年5月25日付 2016年度国際政治経済学部第3回教授会協議事 項2. 左記検証会議体からの委任先:主任会 手続:2016年6月8日付2016年度第4回国際政治 経済学部・研究科主任会議題2.「青山学院大学国 際政治経済学部・研究科主任会における自己点 検・評価の 検証事項に関する手続(案)」	年度初め
	4-1-5M1	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号および第3号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等:2016年5月25日付 2016年度国際政治経済学研究科第3回教授会協 議事項5. 左記検証会議体からの委任先:主任会 手続:2016年6月8日付2016年度第4回国際政治 経済学部・研究科主任会議題2.「青山学院大学国 際政治経済学部・研究科主任会における自己点 検・評価の 検証事項に関する手続(案)」	年度初め
	4-1-5D1	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第2号および第3号 検証会議体:研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等:2016年5月25日付 2016年度国際政治経済学研究科第3回教授会協 議事項5. 左記検証会議体からの委任先:主任会 手続:2016年6月8日付2016年度第4回国際政治 経済学部・研究科主任会議題2.「青山学院大学国 際政治経済学部・研究科主任会における自己点 検・評価の 検証事項に関する手続(案)」	年度初め
	4-1-5U2	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○		【学部】 2016年度第17回国際政治経済学部・研究科主任 会記録議題2.「自己点検・評価の証事項に関する 回答(案)」別添参考資料2	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-5M2	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○		【修士・博士前期】 2016年度第17回国際政治経済学部・研究科主任 会記録議題2.「自己点検・評価の証事項に関する 回答(案)」別添参考資料2	年度末
	4-1-5D2	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	×		【博士後期・一貫制博士】 議題、議事録等 検証会議体()	年度末
	4-1-6U	【学部】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。 ※適切な視点 ・相互に連関が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社 会、文部科学省、大学基準協会等)の要請に あっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすい か。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリ シー修正マニュアル参照)の内容に則ったもの か。 など 適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自 己点検・評価委員会へ報告してください。	2016	×			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-1-6M	<p>【修士・博士前期】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め
	4-1-6D	<p>【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	4-1-7U	<p>【学部】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め
	4-1-7M	<p>【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-7D	<p>【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め

総合文化政策学部・総合文化政策学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-1-1U	【学部】 「教育研究上の目的」を踏まえた卒業要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが学科ごとに設 定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【学部】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016年4月19日)	総合文化政策学部 2016年度授業要覧p1	年度初め
	4-1-1M	【修士・博士前期】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016年5月31日)		年度初め
	4-1-1D	【博士後期・一貫制博士】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016年5月31日)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-1-2U	【学部】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが学科ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【学部】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016年4月19日)	総合文化政策学部 2016年度授業要覧p1	年度初め
	4-1-2M	【修士・博士前期】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016年5月31日)		年度初め
	4-1-2D	【博士後期・一貫制博士】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016年5月31日)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-1-3U	【学部】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に連関した内容になっていますか。	2016	○		総合文化政策学部 2016年度授業要覧p1	年度初め
	4-1-3M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に連関した内容になっていますか。	2016	○			年度初め
	4-1-3D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に連関した内容になっていますか。	2016	○			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-4U	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016年4月19日) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
curriculum.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016年4月19日) 学部パンフレット2016p5・6確認日:(2016年4月19日) 【学生】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016年4月19日)		年度初め
(4)	4-1-4M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
diploma.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016年5月31日) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
curriculum.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016年5月31日) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) <a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht
ml">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016年5月31日)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-4D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016年5月31日) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
curriculum.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016年5月31日) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) <a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht
ml">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016年5月31日)		年度初め
	4-1-5U1	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号および第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月25日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(学部・研究科主任会)	年度初め
	4-1-5M1	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号および第3号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月25日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(学部・研究科主任会)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-1-5D1	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○		【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月25日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(学部・研究科主任会)	年度初め
	4-1-5U2	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○	【学部】 第17回教授会議議事録・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議事録・議事録等	年度末
	4-1-5M2	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 第●回研究科教授会議議事録・議事録等 検証会議体:研究科教授会 (第17回学部教授会で修士課程の分も検証している)	【修士・博士前期】 委任先議事録・議事録等	年度末
	4-1-5D2	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○		【博士後期・一貫制博士】 議題、議事録等 検証会議体(第17回学部教授会で修士課程の分 も検証している)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-1-6U	<p>【学部】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め
	4-1-6M	<p>【修士・博士前期】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-6D	<p>【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め
	4-1-7U	<p>【学部】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	4-1-7M	<p>【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め
	4-1-7D	<p>【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

理工学部・理工学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-1-1U	【学部】 「教育研究上の目的」を踏まえた卒業要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが学科ごとに設 定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【学部】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(20160418)		年度初め
	4-1-1M	【修士・博士前期】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(20160418)		年度初め
	4-1-1D	【博士後期・一貫制博士】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(20160418)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-1-2U	【学部】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが学科ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【学部】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(20160418)		年度初め
	4-1-2M	【修士・博士前期】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(20160418)		年度初め
	4-1-2D	【博士後期・一貫制博士】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(20160418)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-1-3U	【学部】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	×		物数: 学科会議議事録2016.1.20 化生: × 電気: × 機械: 学科会議議事録(第4回2015/6/10) 経シス: × 情テク: 学科会議議事録平成28年1月20日	年度初め
	4-1-3M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	×		基礎科学: × 化学: × 機能物質: × 生命科学: × 電気電子: × 機械創造: コース会議議事録(第4回2015/6/10) 知能情報: コース会議議事録平成28年1月20日 マネテク: ×	年度初め
	4-1-3D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	×		基礎科学: × 化学: × 機能物質: × 生命科学: × 電気電子: × 機械創造: コース会議議事録(第4回2015/6/10) 知能情報: × マネテク: ×	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-4U	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(20160418) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
curriculum.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(20160418) 【学生】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(20160418)		年度初め
(4)	4-1-4M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
diploma.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(20160418) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
curriculum.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(20160418) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) <a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht
ml">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(20160418)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-4D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(20160418) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
curriculum.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(20160418) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) <a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht
ml">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(20160418)		年度初め
	4-1-5U1	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号および第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年4月20日付承認 左記検証会議体からの委任先 :学科会議	年度初め
	4-1-5M1	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号および第3号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月11日付承認 左記検証会議体からの委任先 :コース会議	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-1-5D1	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	×		【博士後期】 大学院学則第73条 博士後期課程委員会議事録に記載なし	年度初め
	4-1-5U2	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○	【学部】 第8回教授会議議事録・議事録等 検証会議体:教授会 2016年9月28日	【学部】 委任先議事録・議事録等 2016年5月11日 主任会 物数:学科会議議事録 2017/01/18 化学:2016年9月28日学科会議議事録 電気:第10回 平成28年9月14日、第11回 平成28 年9月28日、第15回 平成28年11月30日 機械:第8回教室会議メモ2016/9/28 経シス:学科会議議事録(第10回 2016年9月14日) 情テク:学科会議議事録(2017/9/28, 11/30)	年度末
	4-1-5M2	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 第8回研究科教授会議議事録・議事録等 検証会議体:研究科教授会 2016年9月28日	【修士・博士前期】 基礎科学:コース会議議事録 20170217 化学:2016年9月28日コース会議メモ 機能物質:コース会議議事録(第5回2016年2月20 日,議事録公開3月4日) 生命科学:コース会議議事録 2016年2月26日 電気:第10回 平成28年9月14日、第11回 平成28 年9月28日、第15回 平成28年11月30日 機械:第8回教室会議メモ2016/9/28 知能情報:コース会議議事録(2017/9/28, 11/30) 経シス:学科会議議事録(第10回 2016年9月14日)	年度末
	4-1-5D2	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○		【博士後期・一貫制博士】 基礎科学:コース会議議事録20170217 化学:2016年9月28日コース会議メモ 機能物質:コース会議議事録(第5回2016年2月20 日,議事録公開3月4日) 生命科学:コース会議議事録 2016年2月26日 電気:第10回 平成28年9月14日、第11回 平成28 年9月28日、第15回 平成28年11月30日 機械:第8回教室会議メモ2016/9/28 知能情報:コース会議議事録(2017/9/28, 11/30) 経シス:学科会議議事録(第10回 2016年9月14日)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-6U	<p>【学部】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×		<p>物数: 学科会議議事録 2016.1.20 化生: × 電気: × 機械: 学科会議議事録(第4回2015/6/10) 経シス: × 情テク: ×</p>	年度初め
(6)	4-1-6M	<p>【修士・博士前期】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×		<p>基礎科学: × 化学: × 機能物質: × 生命科学: × 電気電子: × 機械創造: コース会議議事録(第4回2015/6/10) 知能情報: × マネテク: ×</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-6D	<p>【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×		基礎科学: × 化学: × 機能物質: × 生命科学: × 電気電子: × 機械創造: コース会議議事録(第4回2015/6/10) 知能情報: × マネテク: ×	年度初め
	4-1-7U	<p>【学部】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×		物数: 学科会議議事録 2016.1.20 化生: × 電気: × 機械: 学科会議議事録(第4回2015/6/10, 第19回2016/1/20, 第20回2016/2/4) 経シス: × 情テク: ×	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	4-1-7M	<p>【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×		<p>基礎科学: × 化学: × 機能物質: × 生命科学: × 電気電子: × 機械創造: コース会議議事録(第4回2015/6/10, 第19回2016/1/20, 第20回2016/2/4) 知能情報: × マネテク: ×</p>	年度初め
	4-1-7D	<p>【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×		<p>基礎科学: × 化学: × 機能物質: × 生命科学: × 電気電子: × 機械創造: コース会議議事録(第4回2015/6/10, 第19回2016/1/20, 第20回2016/2/4) 知能情報: × マネテク: ×</p>	年度初め

社会情報学部・社会情報学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
社会情報学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-1-1U	【学部】 「教育研究上の目的」を踏まえた卒業要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが学科ごとに設 定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【学部】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.5.14)	http://www.aoyama.ac.jp/faculty/ssi/objective.html#anchor_diplomapolicy 確認日:(2016.5.14)	年度初め
	4-1-1M	【修士・博士前期】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.5.17)	http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html#anchor_diplomapolicy 確認日:(2016.5.17)	年度初め
	4-1-1D	【博士後期・一貫制博士】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.5.17)	http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html#anchor_diplomapolicy 確認日:(2016.5.17)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
社会情報学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-1-2U	【学部】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが学科ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【学部】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.5.14)	http://www.aoyama.ac.jp/faculty/ssi/objective.html#anchor_curriculumpolicy 確認日:(2016.5.14)	年度初め
	4-1-2M	【修士・博士前期】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.05.17)	http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html 確認日:(2016.5.17)	年度初め
	4-1-2D	【博士後期・一貫制博士】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.05.17)	http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html 確認日:(2016.5.17)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
社会情報学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-3U	【学部】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○			年度初め
(3)	4-1-3M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○		http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html 確認日:(2016.5.17)	年度初め
	4-1-3D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○		http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html 確認日:(2016.5.17)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
社会情報学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(4)	4-1-4U	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.5.14) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
curriculum.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016.5.14) 【学生】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.5.14)	確認日:(2016.5.14)	年度初め
	4-1-4M	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
diploma.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016.5.17) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
curriculum.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016.5.17) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) <a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht
ml">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016.5.17)	確認日:(2016.5.17)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
社会情報学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-1-4D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対し て周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日:(2016.5.17) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.5.17) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016.5.17)	確認日:(2016.5.17)	年度初め
	4-1-5U1	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【学部】 一昨年自己点検委員会から作成を指示された「社会情報 学部 教員組織の編制方針」 検証会議体:FD研究会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-1-5M1	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 一昨年自己点検委員会から作成を指示された「社会情報 学部 教員組織の編制方針」 検証会議体:FD研究会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
社会情報学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-1-5D1	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○		【博士後期・一貫制博士】 関連規則等 一昨年自己点検委員会から作成を 指示された「社会情報学部 教員組織の編制方 針」 検証会議体(FD研究会)	年度初め
	4-1-5U2	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○	【学部】 一昨年自己点検委員会から作成を指示された「社会情報 学部 教員組織の編制方針」 検証会議体:FD研究会	【学部】 第13回 教授会議題(2016.11.30) 議案:3ポリシーについて	年度末
	4-1-5M2	【修士・博士前期】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 一昨年自己点検委員会から作成を指示された「社会情報 学部 教員組織の編制方針」 検証会議体:FD研究会	【修士・博士前期】 第13回 学部教授会議題(2016.11.30) 議案:3ポリシーについて	年度末
	4-1-5D2	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○		【博士後期・一貫制博士】 議題、議事録等 検証会議体(第13回 学部教授会)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
社会情報学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
	4-1-6U	<p>【学部】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日:(2016.5.14)</p>	年度初め
(6)	4-1-6M	<p>【修士・博士前期】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html 確認日:(2016.5.17)</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
社会情報学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
	4-1-6D	<p>【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html</p> <p>確認日:(2016.5.17)</p>	年度初め
	4-1-7U	<p>【学部】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(2016.5.14)</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
社会情報学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	4-1-7M	<p>【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html</p> <p>確認日:(2016.5.17)</p>	年度初め
	4-1-7D	<p>【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html</p> <p>確認日:(2016.5.17)</p>	年度初め

地球社会共生学部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-1-1U	【学部】 「教育研究上の目的」を踏まえた卒業要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが学科ごとに設 定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【学部】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016/05/13) 学部パンフレット(2015年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/05/13) 学部ホームページ http://www.gsc.aoyama.ac.jp/introduction/policy/ 確認日:(2016/05/13)		年度初め
(2)	4-1-2U	【学部】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするた めに、教育内容、教育方法(※1)に関する基本 的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが学 科ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、 ITの活用、外国語科目以外での外国語による授 業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	×	【学部】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016/05/13)		年度初め
(3)	4-1-3U	【学部】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相 互に関連した内容になっていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/05/13) 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016/05/13) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 学部ホームページ http://www.gsc.aoyama.ac.jp/introduction/policy/ 学部パンフレット(2015年度)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	4-1-4U	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシー が公的な刊行物、ホームページ等によって、教 職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対 して周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016/05/13) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/
curriculum.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016/05/13) 学部パンフレット(2015年度) 【学生】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/05/13)		年度初め
(5)	4-1-5U1	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシ ーの内容の適切性や相互の連関を検証するにあ たり、会議体(委員会等)・手続きが明文化され ていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号および第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年4月20日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(主任会)	年度初め
(5)	4-1-5U2	【学部】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシ ーの内容の適切性や相互の連関は明文化された 手続きに従って定期的に検証され、その結果は 改善につながっていますか。	2016	○	【学部】 第16回教授会議議・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等 第16回主任会(2017年1月18日) 「2016年度地球社会共生学部自己点検評価に関 する主任会による検証について」	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-1-6U	<p>【学部】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>学部パンフレット(2015年度) 学部HP</p>	年度初め
(7)	4-1-7U	<p>【学部】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>地球社会共生学部設置届け出書(平成26年4月24日)</p>	年度初め

国際マネジメント研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-1-1D	【博士後期・一貫制博士】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016/6/1)	2016年度研究科授業要覧 Ph.D/DBA Programs	年度初め
	4-1-1P	【専門職】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【専門職】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016/6/1)	2016年度研究科授業要覧 MBA Programs	年度初め
(2)	4-1-2D	【博士後期・一貫制博士】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするた めに、教育内容、教育方法(※1)に関する基本 的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専 攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、 ITの活用、外国語科目以外での外国語による授 業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016/6/1)	研究科2016年度授業要覧 Ph.D/DBA Programs	年度初め
	4-1-2P	【専門職】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするた めに、教育内容、教育方法(※1)に関する基本 的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが設 定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、 ITの活用、外国語科目以外での外国語による授 業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【専門職】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016/6/1)	研究科2016年度授業要覧 MBA Programs	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-1-3D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○		2016/6/1 研究科自己点検・評価委員会で議論 し、関連した内容になっていることを確認(議事録 に記載)	年度初め
	4-1-3P	【専門職】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○		2016/6/1 研究科自己点検・評価委員会で議論 し、関連した内容になっていることを確認(議事録 に記載)	年度初め
(4)	4-1-4D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対 して周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016/6/1) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016/6/1) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016/6/3)	大学ホームページ http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_abs/m anagement-seicne/policy_html . 【学生】 学生ポータル「授業要覧」 http://portalsanshou2014.jm.aoyama.ac.jp/AGUInf o/web_a_senmonshoku/youran/hyoushi.htm	年度初め
	4-1-4P	【専門職】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーが 公的な刊行物、ホームページ等によって、教職 員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対 して周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016/6/1) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016/6/1)	大学ホームページ http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_abs/m anagement/policy_html . 研究科ホームページ「ディプロマポリシー・カリ キュラムポリシー」 http://www.aoyamabs.value/admissionpolicy/html .	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-1-5D1	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	×		【博士後期・一貫制博士】 関連規則等 検証会議体(教授会、博士課程委員会、カリキュ ラム委員会、執行委員会等)で議論されている が、手続きは明文化されていない	年度初め
	4-1-5P1	【専門職】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、 会議体(委員会等)・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第2号および第3号 検証会議体: 研究科教授会	【専門職】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-1-5D2	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○	(一貫制博士) 2017年度第3回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 2017年度第2回国際マネジメント研究科議事録 委任に関する申し合わせ等 : 2017年5月24日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(国際マネジメント研究科自己点検・評価委員 会)	年度末
	4-1-5P2	【専門職】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの 内容の適切性や相互の連関は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。	2016	○	【専門職】 2017年度第3回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会	【専門職】 2017年度第2回国際マネジメント研究科議事録 委任に関する申し合わせ等 : 2017年5月24日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(国際マネジメント研究科自己点検・評価委員 会)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-1-6D	<p>【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		2016/6/1 研究科自己点検・評価委員会で議論し、適切であることを確認(議事録に記載)	年度初め
	4-1-6P	<p>【専門職】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		2016/6/1 研究科自己点検・評価委員会で議論し、適切であることを確認(議事録に記載)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	4-1-7D	<p>【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		2016/6/1 研究科自己点検・評価委員会で議論し、適切であることを確認(議事録に記載)	年度初め
	4-1-7P	<p>【専門職】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		2016/6/1 研究科自己点検・評価委員会で議論し、適切であると確認(議事録に記載)	年度初め

法務研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部専門職大学院教務課

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-1-1P	【専門職】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【専門職】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日:(6/9)		年度初め
(2)	4-1-2P	【専門職】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするた めに、教育内容、教育方法(※1)に関する基本 的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが設 定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、 ITの活用、外国語科目以外での外国語による授 業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【専門職】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(6/9)		年度初め
(3)	4-1-3P	【専門職】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相 互に関連した内容になっていますか。	2016	○		青山学院大学大学院法務研究科主任会規程	年度初め
(4)	4-1-4P	【専門職】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシ ーが公的な刊行物、ホームページ等によって、教 職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対 して周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日:(6/9) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/curriculum.html 確認日:(6/9)	法務研究科入学試験要項(2017年度)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部専門職大学院教務課

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-1-5P1	【専門職】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの内容の適切性や相互の連関を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第2号および第3号 検証会議体: 研究科教授会	【専門職】 青山学院大学大学院法務研究科主任会規程 検証会議体(法務研究科主任会)	年度初め
	4-1-5P2	【専門職】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの内容の適切性や相互の連関は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【専門職】 第10回研究科教授会議議・議事録等 検証会議体: 研究科教授会		年度末
(6)	4-1-6P	【専門職】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。 ※適切な視点 ・相互に連関が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など 適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。	2016	○		青山学院大学大学院法務研究科主任会規程 法務研究科講義内容(シラバス)(2016年度)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部専門職大学院教務課

評価基準： 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	4-1-7P	<p>【専門職】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		青山学院大学大学院法務研究科主任会規程 検証会議体(法務研究科主任会)	年度初め

会計プロフェッション研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-1-1D	【博士後期・一貫制博士】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016年5月27日)	「2016年度青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科大学院要覧」 26ページ	年度初め
	4-1-1P	【専門職】 「教育研究上の目的」を踏まえた修了要件(※) 等が明確なディプロマポリシーが専攻および課 程ごとに設定されていますか。 ※課程修了にあたって修得すべき学習成果、そ の達成のための諸要件	2016	○	【専門職】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016年5月27日)	「2016年度青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科大学院要覧」 6ページ 「青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科研究科案内2016」(パ ンフレット)2ページ	年度初め
(2)	4-1-2D	【博士後期・一貫制博士】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするた めに、教育内容、教育方法(※1)に関する基本 的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが専 攻ごとに設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、 ITの活用、外国語科目以外での外国語による授 業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016年5月27日)	ホームページ「プロフェッショナル会計学専攻(後期課程)」 http://www.gspa.aoyama.ac.jp/about/about.html 確認日:(2016年5月27日) 「2016年度青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科大学院要覧」 26ページ	年度初め
	4-1-2P	【専門職】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするた めに、教育内容、教育方法(※1)に関する基本 的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが設 定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、 ITの活用、外国語科目以外での外国語による授 業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【専門職】 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016年5月27日)	ホームページ「会計プロフェッション専攻(専門職学位課程)」 http://www.gspa.aoyama.ac.jp/about/about.html 確認日:(2016年5月27日) 「2016年度青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科大学院要覧」 6ページ 「青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科研究科案内2016」(パ ンフレット)2ページ	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-1-3D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○		ディプロマポリシーは、カリキュラムポリシーが定める教育内容を修得し た者に学位が付与されることを明示している。	年度初め
	4-1-3P	【専門職】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互 に関連した内容になっていますか。	2016	○		ディプロマポリシーは、カリキュラムポリシーが定める教育内容を修得し た者に学位が付与されることを明示している。	年度初め
(4)	4-1-4D	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシー が公的な刊行物、ホームページ等によって、教 職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対 して周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016年5月27日) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016年5月27日) 【学生】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.h tml 確認日:(2016年5月27日)	ホームページ「プロフェッショナル会計学専攻(後期課程)」 http://www.gspa.aoyama.ac.jp/about/about.html 確認日:(2016年5月27日) 「2016年度青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科大学院要覧」 26ページ	年度初め
	4-1-4P	【専門職】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシー が公的な刊行物、ホームページ等によって、教 職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対 して周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ diploma.html 確認日:(2016年5月27日) 大学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ curriculum.html 確認日:(2016年5月27日)	ホームページ「プロフェッショナル会計学専攻(後期課程)」 http://www.gspa.aoyama.ac.jp/about/about.html 確認日:(2016年5月27日) 「2016年度青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科大学院要覧」 6ページ 「青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科研究科案内2016」(パ ンフレット)2ページ	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-1-5D1	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシー の内容の適切性や相互の連関を検証するにあ たり、会議体(委員会等)・手続きが明文化され ていますか。	2016			【博士後期・一貫制博士】 関連規則等 検証会議体()	年度初め
	4-1-5P1	【専門職】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシー の内容の適切性や相互の連関を検証するにあ たり、会議体(委員会等)・手続きが明文化され ていますか。	2016	○		会議体→カリキュラム検討委員会(資料5:根拠資料は、「2016年度会計 プロフェッション研究科諸委員」2016年6月1日教授会資料)	年度初め
	4-1-5D2	【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシー の内容の適切性や相互の連関は明文化された 手続きに従って定期的に検証され、その結果は 改善につながっていますか。	2016	×	2017年度第3回研究科教授会協議事項4~6	「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016年度自己点検評価報告 書」	年度末
	4-1-5P2	【専門職】 ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシー の内容の適切性や相互の連関は明文化された 手続きに従って定期的に検証され、その結果は 改善につながっていますか。	2016	○	【専門職】 青山学院大学専門職大学院学則第56条第1項第2号およ び第3号 2016年度第5回研究科教授会報告事項8、第7回研究科教 授会協議事項6、第8回研究科教授会報告事項9、第9回 研究科教授会協議事項4、第10回研究科教授会協議事項 4、第12回研究科教授会協議事項6、第13回研究科教授 会協議事項5、第14回研究科教授会協議事項3、2017年 度第3回研究科教授会協議事項4~6 検証会議体:研究科教授会	【専門職】 「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016年度自己点検評価報告 書」 2016年度第5回教員FD研修会(2017年3月25日)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-1-6D	<p>【博士後期・一貫制博士】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>ディプロマポリシーは、カリキュラムポリシーとの整合性、現状の学位付与の内容との適合性、各方面の要請との適合性を満たして作成され、ホームページ等で公表されている。今後とも、第三者機関の評価結果等を踏まえながら、適切に見直しを実施してまいりたい。</p>	年度初め
	4-1-6P	<p>【専門職】 ディプロマポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>ディプロマポリシーは、カリキュラムポリシーとの整合性、現状の学位付与の内容との適合性、各方面の要請との適合性を満たして作成され、ホームページ等で公表されている。今後とも、第三者機関の評価結果等を踏まえながら、適切に見直しを実施してまいりたい。</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	4-1-7D	<p>【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		カリキュラムポリシーは、ディプロマポリシーとの整合性、現状のカリキュラム実施内容との適合性、各方面の要請との適合性を満たして作成され、ホームページ等で公表されている。今後とも、第三者機関の評価結果等を踏まえながら、適切に見直しを実施してまいりたい。	年度初め
	4-1-7P	<p>【専門職】 カリキュラムポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		カリキュラムポリシーは、ディプロマポリシーとの整合性、現状のカリキュラム実施内容との適合性、各方面の要請との適合性を満たして作成され、ホームページ等で公表されている。今後とも、第三者機関の評価結果等を踏まえながら、適切に見直しを実施してまいりたい。	年度初め

青山スタンダード教育機構

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 青山スタンダード教育機構

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-1(教育内容・方法・成果__教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)

色のついたセルに

- 1 自己評価(○ or ×)を記入する
- 2 根拠資料を挙げる(共通 and オリジナル)
- 3 学科ごと、専攻(課程)ごとの状況説明、次年度への引き継ぎ事項等がある場合は備考欄へ記入する

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-1-1A	【青スタ】 必要単位の修得にあたって獲得すべき学習成果、その達成のための諸要件等が明確なディプロマポリシーが設定されていますか。	2016	○	【青スタ】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日:(2016/5/18)	【青スタ】 大学ホームページ「青山スタンダード科目の特長(含主要科目の特長)」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/aoyamastandard/curriculum/ 確認日:(2016/5/18)	年度初め
(2)	4-1-2A	【青スタ】 学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法(※1)に関する基本的な考え方をまとめたカリキュラムポリシーが設定されていますか(※2)。 ※1グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態 ※2単なるカリキュラムの現状説明は不可	2016	○	【青スタ】 大学ホームページ「教育研究上の目的・カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/aoyamastandard/objective.html 確認日:(2016/5/18)		年度初め
(3)	4-1-3A	【青スタ】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは相互に関連した内容になっていますか。	2016	○		【青スタ】 大学ホームページ「青山スタンダード科目の特長(含主要科目の特長)」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/aoyamastandard/curriculum/ 大学ホームページ「教育研究上の目的・カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/aoyamastandard/objective.html 確認日:(2016/5/18)	年度初め
(4)	4-1-4A	【青スタ】 ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーが公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して周知・公表されていますか。	2016	○	【社会一般、受験生、教職員】 大学ホームページ「ディプロマポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/diploma.html 確認日:(2016/5/18) 大学ホームページ「教育研究上の目的・カリキュラムポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/aoyamastandard/objective.html 確認日:(2016/5/18)	【青スタ】 大学ホームページ「青山スタンダード科目の特長(含主要科目の特長)」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/aoyamastandard/curriculum/ 確認日:(2016/5/18)	年度初め

2016年度 自己点検・評価結果

基準4-2 教育内容・方法・成果

(教育課程・教育内容)

文学部・文学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-2-1U	【学部】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 設置基準第19条第2項に基づいて編成されてい ますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.5.15)		年度初め
	4-2-1M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016.5.21)		年度初め
	4-2-1D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016.5.21)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-2-2U	【学部】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学⇔専門職大学院、短大⇔大学等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.5.15) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め
	4-2-2M	【修士・博士前期】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016.5.21) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め
	4-2-2D	【博士後期・一貫制博士】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016.5.21) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-2-3M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016.5.21)		年度初め
	4-2-3D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	×	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016.5.21)		年度初め
(4)	4-2-5U	【学部】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」(2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.5.29)	学科パンフレット2016	年度初め
	4-2-5M	【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	×			年度初め
	4-2-5D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	×			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-2-6U1	【学部】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6M1	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6D1	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6U2	【学部】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	×	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会		年度末
	4-2-6M2	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	×	【修士・博士前期】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-2-6D2	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	×	【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

教育人間科学部・教育人間科学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
教育人間科学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-2（教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(1)	4-2-1U	【学部】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび 大学設置基準第19条第2項に基づいて編成さ れていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧（履修ガイド）」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日：(2016/5/5)		年度初め
	4-2-1M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび 大学院設置基準第11条第2項に基づいて編成 されていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/grad uate.html 確認日：(2016.05.07)		年度初め
	4-2-1D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび 大学院設置基準第11条第2項に基づいて編成 されていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/grad uate.html 確認日：(2016.05.07)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
教育人間科学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-2（教育内容・方法・成果_教育課程・教育内容）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(2)	4-2-2U	<p>【学部】 異なる教育機関（大学⇄大学院、大学⇄専門職大学院、短大⇄大学等）と合同授業を実施している場合（※）、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。</p> <p>※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。</p>	2016	○	<p>【学部】 大学ホームページ「授業要覧（履修ガイド）」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日：(2016/5/5) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱</p>		年度初め
	4-2-2M	<p>【修士・博士前期】 異なる教育機関（大学⇄大学院、大学院⇄専門職大学院等）と合同授業を実施している場合（※）、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。</p> <p>※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日：(2016.05.07) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱</p>		年度初め
	4-2-2D	<p>【博士後期・一貫制博士】 異なる教育機関（大学⇄大学院、大学院⇄専門職大学院等）と合同授業を実施している場合（※）、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。</p> <p>※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日：(2016.05.07) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱</p>		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
教育人間科学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-2（教育内容・方法・成果_教育課程・教育内容）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(3)	4-2-3M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび 大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と 研究指導科目を適切に組み合わせたものに なっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日：(2016.05.13)		年度初め
	4-2-3D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび 大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と 研究指導科目を適切に組み合わせたものに なっていますか。	2016	×	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日：(2016.05.07)		年度初め
(4)	4-2-5U	【学部】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や 教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子 等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的 な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧（履修ガイド）」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日(2016/5/5)		年度初め
	4-2-5M	【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や 教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子 等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的 な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html (2016.5.7)		年度初め
	4-2-5D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や 教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子 等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的 な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html (2016.5.7)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
教育人間科学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-2（教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(5)	4-2-6U1	【学部】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、 会議体（委員会等）・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会		年度初め
	4-2-6M1	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、 会議体（委員会等）・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会		年度初め
	4-2-6D1	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、 会議体（委員会等）・手続きが明文化されて いますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会		年度初め
	4-2-6U2	【学部】 カリキュラムの適切性は明文化された手続き に従って定期的に検証され、その結果は改善 につながっていますか。	2016	○	【学部】 第●回教授会議議・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 第19回教育人間科学部教授会資料(2017年3月 10日開催)	年度末
	4-2-6M2	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性は明文化された手続き に従って定期的に検証され、その結果は改善 につながっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 第●回研究科教授会議議・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 第19回教育人間科学部教授会資料(2017年3月 10日開催)	年度末
	4-2-6D2	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性は明文化された手続き に従って定期的に検証され、その結果は改善 につながっていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議議・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【博士後期・一貫制前期】 第19回教育人間科学部教授会資料(2017年3月 10日開催)	年度末

経済学部・経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-2-1U	【学部】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 設置基準第19条第2項に基づいて編成されてい ますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (16 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-2-1M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (16 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016/ 6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-2-1D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (16 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016/ 6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(2)	4-2-2U	【学部】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学⇔専門職大学院、短大⇔大学等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (16 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/6/4) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-2-2M	【修士・博士前期】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (16 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/6/4) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-2-2D	【博士後期・一貫制博士】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (16 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/6/4) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-2-3M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (16 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-2-3D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (16 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
(4)	4-2-5U	【学部】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-2-5M	【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	実態として配慮がなされている。確認日6/4	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-2-5D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	実態として配慮がなされている。確認日6/4	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-2-6U1	【学部】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用がなされており、それが規範として確立している。	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-2-6M1	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用がなされており、それが規範として確立している。	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-2-6D1	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用がなされており、それが規範として確立している。	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-2-6U2	【学部】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用がなされており、それが規範として確立している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	4-2-6M2	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用がなされており、それが規範として確立している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	4-2-6D2	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用がなされており、それが規範として確立している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末

法学部・法学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(1)	4-2-1U	【学部】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 設置基準第19条第2項に基づいて編成されてい ますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.04.01.)		年度初め
	4-2-1M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016.04.01.)		年度初め
	4-2-1D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016.04.01.)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(2)	4-2-2U	【学部】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学⇔専門職大学院、短大⇔大学等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.04.01.) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め
	4-2-2M	【修士・博士前期】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	×	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:() 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め
	4-2-2D	【博士後期・一貫制博士】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	×	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:() 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め
(3)	4-2-3M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	×	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:()		年度初め
	4-2-3D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	×	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:()		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	4-2-5U	【学部】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○			年度初め
	4-2-5M	【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○			年度初め
	4-2-5D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-2-6U1	【学部】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6M1	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6D1	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6U2	【学部】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	○	【学部】 第14回教授会議議題・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-2-6M2	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	×	【修士・博士前期】 第●回研究科教授会議議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-2-6D2	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	×	【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

経営学部・経営学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-2-1U	【学部】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 設置基準第19条第2項に基づいて編成されてい ますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
	4-2-1M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
	4-2-1D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年6月7日)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(2)	4-2-2U	【学部】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学⇔専門職大学院、短大⇔大学等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016年6月7日) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め
	4-2-2M	【修士・博士前期】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年6月7日) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め
	4-2-2D	【博士後期・一貫制博士】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年6月7日) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(3)	4-2-3M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
	4-2-3D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	×	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
(4)	4-2-5U	【学部】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/		年度初め
	4-2-5M	【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html		年度初め
	4-2-5D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-2-6U1	【学部】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6M1	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6D1	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6U2	【学部】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	×	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-2-6M2	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	×	【修士・博士前期】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-2-6D2	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	×	【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

国際政治経済学部・国際政治経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-2-1U	【学部】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 設置基準第19条第2項に基づいて編成されてい ますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/pdf/sippec_2016.pdf 確認日:(2016/5/17)		年度初め
	4-2-1M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/pdf/graduate_2016.pdf 確認日:(2016/5/17)		年度初め
	4-2-1D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	×	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 ()年度 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:()		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-2-2U	【学部】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学⇔専門職大学院、短大⇔大学等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	×			年度初め
	4-2-2M	【修士・博士前期】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	×			年度初め
	4-2-2D	【博士後期・一貫制博士】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 () 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:() 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-2-3M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」97-98頁 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/pdf/graduate_2016.pdf 確認日:(2016/5/17)		年度初め
	4-2-3D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	×	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 ()年度 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:()		年度初め
(4)	4-2-5U	【学部】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/pdf/sipec_2016.pdf 確認日:(2016/5/17)		年度初め
	4-2-5M	【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/pdf/graduate_2016.pdf 確認日:(2016/5/17)		年度初め
	4-2-5D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	【博士後期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/pdf/graduate_2016.pdf 確認日:(2016/5/17)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-2-6U1	【学部】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等:2016年5月25日付 2016年度国際政治経済学部第3回教授会協議事 項2. 左記検証会議体からの委任先:主任会 手続:2016年6月8日付2016年度第4回国際政治 経済学部・研究科主任会議題2.「青山学院大学国 際政治経済学部・研究科主任会における自己点 検・評価の 検証事項に関する手続(案)」	年度初め
	4-2-6M1	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等:2016年5月25日付 2016年度国際政治経済学研究科第3回教授会協 議事項5. 左記検証会議体からの委任先:主任会 手続:2016年6月8日付2016年度第4回国際政治 経済学部・研究科主任会議題2.「青山学院大学国 際政治経済学部・研究科主任会における自己点 検・評価の 検証事項に関する手続(案)」	年度初め
	4-2-6D1	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等:2016年5月25日付 2016年度国際政治経済学研究科第3回教授会協 議事項5. 左記検証会議体からの委任先:主任会 手続:2016年6月8日付2016年度第4回国際政治 経済学部・研究科主任会議題2.「青山学院大学国 際政治経済学部・研究科主任会における自己点 検・評価の 検証事項に関する手続(案)」	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-2-6U2	【学部】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	○		【学部】 2016年度第17回国際政治経済学部・研究科主任 会記録議題2.「自己点検・評価の証事項に関する 回答(案)」別添参考資料2	年度末
	4-2-6M2	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	○		【修士・博士前期】 2016年度第17回国際政治経済学部・研究科主任 会記録議題2.「自己点検・評価の証事項に関する 回答(案)」別添参考資料2	年度末
	4-2-6D2	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	×		【修士・博士前期】 2016年度第17回国際政治経済学部・研究科主任 会記録議題2.「自己点検・評価の証事項に関する 回答(案)」別添参考資料2	年度末

総合文化政策学部・総合文化政策学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(1)	4-2-1U	【学部】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 設置基準第19条第2項に基づいて編成されてい ますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016年4月19日)	授業要覧 総合文化政策学部 2016年度p1	年度初め
	4-2-1M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016年5月31日)		年度初め
	4-2-1D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016年5月31日)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-2-2U	【学部】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学⇔専門職大学院、短大⇔大学等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016年4月19日) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱	「社会調査士」関係の授業を実施している。	年度初め
	4-2-2M	【修士・博士前期】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年5月31日) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱	「社会調査士」関係の授業を実施している。	年度初め
	4-2-2D	【博士後期・一貫制博士】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年5月31日) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱	「社会調査士」関係の授業を実施している。	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(3)	4-2-3M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年5月31日)		年度初め
	4-2-3D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年5月31日)		年度初め
(4)	4-2-5U	【学部】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○		学生ポータルで科目ナンバリングを公開している	年度初め
	4-2-5M	【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○		大学院要覧に「履修基本モデル」を記載している	年度初め
	4-2-5D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○		大学院要覧に「履修基本モデル」を記載している	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-2-6U1	【学部】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月25日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(学部・研究科合同主任会)	年度初め
	4-2-6M1	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6D1	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6U2	【学部】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	○	【学部】 第17回教授会議議題・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-2-6M2	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 第●回研究科教授会議議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会 (第17回学部教授会にてまとめて検証している)	【修士・博士前期】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-2-6D2	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会 (第17回学部教授会にてまとめて検証している)	【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

理工学部・理工学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-2-1U	【学部】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 設置基準第19条第2項に基づいて編成されてい ますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(20160421)		年度初め
	4-2-1M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(20160421)		年度初め
	4-2-1D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(20160421)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-2-2U	【学部】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学⇔専門職大学院、短大⇔大学等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(20160421) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱	物数:実施→質担保× 化生:実施していない 電気:実施していない。 機械:実施していない 経シス:実施していない 情テク:実施していない 教授会資料(別紙17-40)20160310	年度初め
	4-2-2M	【修士・博士前期】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	×	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(20160421) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱	基礎科学:実施→質担保× 化学:実施していない 機能物質:実施していない 生命科学:実施していない 電気電子:実施していない 機械創造:実施していない 知能情報:実施していない マネテク:実施していない 教授会資料(別紙17-40)20160310	年度初め
	4-2-2D	【博士後期・一貫制博士】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(20160421) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱	実施していない	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-2-3M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	×	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(20160421)	専攻全体: × 基礎科学: × 化学: × 機能物質: × 生命科学: コース会議議事録(20151116) 電気電子: × 機械創造: コース会議議事録(第4回2015/6/10, 第10回2015/9/11, 第13回2015/10/14, 第14回2015/10/28, 第19回2016/1/20, 第20回2016/2/4) 知能情報: × マネテク: コース会議議事録5月13日	年度初め
	4-2-3D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	×	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(20160421)	専攻全体: × 基礎科学: × 化学: × 機能物質: × 生命科学: × 電気電子: × 機械創造: コース会議議事録(第4回2015/6/10, 第10回2015/9/11, 第13回2015/10/14, 第14回2015/10/28, 第19回2016/1/20, 第20回2016/2/4) 知能情報: × マネテク: コース会議議事録10月14日	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	4-2-5U	【学部】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(20160421)	授業要覧2016年3月28日web公開 物数:× 化生:× 電気:× 機械:学科会議議事録(第1回2015/4/22, ナンバリングは第10回2015/9/11) 経シス:学科会議議事録11月11日 情テク:学科会議議事録平成27年2月4日	年度初め
	4-2-5M	【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(20160531)	授業要覧2016年3月28日web公開 基礎科学:× 化学:× 機能物質:× 生命科学:× 電気電子:× 機械創造:コース会議議事録(第4回2015/6/10,第13回2015/10/14, 第14回2015/10/28) 知能情報:× マネテク:コース会議議事録11月25日	年度初め
	4-2-5D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(20160531)	授業要覧2016年3月28日web公開 基礎科学:× 化学:× 機能物質:× 生命科学:× 電気電子:× 機械創造:コース会議議事録(第4回2015/6/10,第13回2015/10/14, 第14回2015/10/28) 知能情報:× マネテク:コース会議議事録1月13日	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-2-6U1	【学部】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年4月20日付承認 左記検証会議体からの委任先 :学科会議	年度初め
	4-2-6M1	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月11日付承認 左記検証会議体からの委任先 :コース会議	年度初め
	4-2-6D1	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月11日付承認 左記検証会議体からの委任先 :専攻コース会議	年度初め
(5)	4-2-6U2	【学部】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	○	【学部】 第8回教授会議議題・議事録等 検証会議体:教授会 2016年9月28日	【学部】 物数:学科会議議事録(2016/06/08) 化生:2016年11月30日学科会議議事録 電気:第5回 平成28年6月8日、第10回 平成28年9 月14日、第15回 平成28年11月30日 機械:第3回教室会議メモ2016/5/25, 第4回教室 会議メモ2016/6/8, 第9回教室会議メモ 2016/10/12 経シス:学科会議議事録(第14回 2016年11月9日) 情テク:学科会議議事録(2016/12/14, 2017/2/6)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-2-6M2	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	×	【修士・博士前期】 第8回研究科教授会議議事録等 検証会議体: 研究科教授会 2016年9月28日	【修士・博士前期】 基礎科学: 化学: 2016年11月30日コース会議メモ 機能物質: 会議第五回議事録 2017.2.20/議事録 送信3.20 生命科学: コース会議議事録(20151116) 電気: 第5回 平成28年6月8日、第10回 平成28年9 月14日、第15回 平成28年11月30日 機械: 第11回教室会議メモ2016/11/9, 第17回教 室会議メモ2017/2/27 知能情報: × マネジメント:	年度末
	4-2-6D2	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	×	【博士後期・一貫制博士】 第8回研究科教授会議議事録等 検証会議体: 研究科教授会 2016年5月11日	【博士後期・一貫制博士】 基礎科学: コース会議議事録 2017/02/17 化学: 2016年11月30日コース会議メモ 機能物質コース: 会議第五回議事録 2017.2.20/ 議事録送信3.20 生命科学: コース会議議事録 2015年11月16日 電気: 第5回 平成28年6月8日、第10回 平成28年9 月14日、第15回 平成28年11月30日 機械: 第11回教室会議メモ2016/11/9 知能情報: × マネテク: 学科会議議事録(第15回 2016年11月30 日)	年度末

社会情報学部・社会情報学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果_教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-2-1U	【学部】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 設置基準第19条第2項に基づいて編成されてい ますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.5.14)	http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.5.14)、 http://www.si.aoyama.ac.jp/pdf/2016-ssi.pdf 、確 認日:(2016.6.3)、 http://www.si.aoyama.ac.jp/faculty/index 、確認 日:(2016.6.3)、青山学院大学社会情報学部へよ うこそ!	年度初め
	4-2-1M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016.05.17)		年度初め
	4-2-1D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 院設置基準第11条第2項に基づいて編成されて いますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016.05.17)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
社会情報学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(2)	4-2-2U	【学部】 異なる教育機関(大学⇄大学院、大学⇄専門職大学院、短大⇄大学等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.5.14) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱(大学第3編学事第1章教務第3節学務)		年度初め
	4-2-2M	【修士・博士前期】 異なる教育機関(大学⇄大学院、大学院⇄専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016.05.17) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め
	4-2-2D	【博士後期・一貫制博士】 異なる教育機関(大学⇄大学院、大学院⇄専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016.05.17) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め
(3)	4-2-3M	【修士・博士前期】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016.05.17)		年度初め
	4-2-3D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:()		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果_教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	4-2-5U	【学部】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.5.14)	http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.5.14)、 http://www.si.aoyama.ac.jp/pdf/2016-ssi.pdf 、確認日:(2016.6.3)、 http://www.si.aoyama.ac.jp/faculty/index 、確認日:(2016.6.3)、 <u>青山学院大学社会情報学部へようこそ!</u>	年度初め
	4-2-5M	【修士・博士前期】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○		https://jimweb.im.aoyama.ac.jp/kyoumu/daigakuin_youran(shakaijohou)2016.pdf 確認日:(2016.5.17)	年度初め
	4-2-5D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○		https://jimweb.im.aoyama.ac.jp/kyoumu/daigakuin_youran(shakaijohou)2016.pdf 確認日:(2016.5.17)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
社会情報学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果_教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-2-6U1	【学部】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 ①関連規則等:2016年度社会情報学部・社会情報学研究科諸委員一覧、検証会議体:教務委員会、②社会情報学部/社会情報学研究科 教員組織の編成方針(2015年6月24日教授会資料5-6)、検証会議体:合宿形式によるFD研究会:(2016年3月16~17日)	年度初め
	4-2-6M1	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6D1	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6U2	【学部】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【学部】 第13回教授会議議・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 合宿形式によるFD研究会(2017年3月12~13日) 議事録	年度末
	4-2-6M2	【修士・博士前期】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 第13回教授会議議・議事録等 検証会議体:学部教授会	【修士・博士前期】 学部教授会	年度末
	4-2-6D2	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 第13回教授会議議・議事録等 検証会議体:学部教授会	【博士後期・一貫制博士】 学部教授会	年度末

地球社会共生学部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(1)	4-2-1U	【学部】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 設置基準第19条第2項に基づいて編成されてい ますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/05/13)		年度初め
(2)	4-2-2U	【学部】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学⇔専門職 大学院、短大⇔大学等)と合同授業を実施してい る場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞ れの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上 「○」とし、備考欄にその旨記載してください。地 球はこの場合に当てはまる	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 ()年度 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:() 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に 関する要綱		年度初め
(3)	4-2-5U	【学部】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教 育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に 明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的 な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2015/05/13)		年度初め
(4)	4-2-6U1	【学部】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年4月20日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(教務委員会)	年度初め
	4-2-6U2	【学部】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	○	【学部】 第16回教授会議議・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等 第8回教務委員会 「自己点検評価検証作業について(案)」 (2016/12/14)	年度末

国際マネジメント研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果_教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-2-1D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第11条第2項に基づいて編成されていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/6/3)	研究科2016年度授業要覧 Ph.D/DBA Programs	年度初め
	4-2-1P	【専門職】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第11条第2項に基づいて編成されていますか。	2016	○		研究科2016年度授業要覧 MBA Programs	年度初め
(2)	4-2-2D	【博士後期・一貫制博士】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/6/3) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱	博士課程各学生の主査が、専門職・他研究科の科目履修に関してアドバイスを行うなど教育の質保証を担保する工夫を行っていることを 2015/5/25開催の研究科自己点検・評価委員会で議論し、確認(議事録に記載)	年度初め
	4-2-2P	【専門職】 異なる教育機関(大学院⇔専門職大学院、大学⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【専門職】 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱	他研究科の履修者に対して科目担当教員が科目履修の適切性などを判断して履修を許可している、教員オリエンテーションで口頭説明を行う、など教育の質を担保する工夫を行っていることを 2016/6/1開催の研究科自己点検・評価委員会で議論し、確認(議事録に記載)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果_教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-2-3D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/6/3)	研究科2016年度授業要覧 Ph.D/DBA Programs	年度初め
(4)	4-2-4P	【専門職】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび専門職大学院設置基準第6条に基づき、理論教育と実務教育を適切に組み合わせたものとなっていますか。	2016	○		研究科2016年度授業要覧 MBA Programs	年度初め
(5)	4-2-5D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○		研究科2016年度授業要覧 Ph.D/DBA Programs	年度初め
	4-2-5P	【専門職】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○		研究科2016年度授業要覧 MBA Programs	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果_教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-2-6D1	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体: 研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6P1	【専門職】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第3号 検証会議体: 研究科教授会	【専門職】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-2-6D2	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 2017年度第3回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 2017年度第2回国際マネジメント研究科議事録 委任に関する申し合わせ等 : 2017年5月24日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(国際マネジメント研究科自己点検・評価委員 会)	年度末
	4-2-6P2	【専門職】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	○	【専門職】 2017年度第3回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会	【専門職】 2017年度第2回国際マネジメント研究科議事録 委任に関する申し合わせ等 : 2017年5月24日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(国際マネジメント研究科自己点検・評価委員 会)	年度末

法務研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法務研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部専門職大学院教務課
 評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-2-1P	【専門職】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第11条第2項に基づいて編成されていますか。	2016	○		法科大学院要覧(2016年度) 法務研究科講義内容(シラバス)(2016年度)	年度初め
(2)	4-2-2P	【専門職】 異なる教育機関(大学院⇔専門職大学院、大学⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【専門職】 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め
(3)	4-2-4P	【専門職】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび専門職大学院設置基準第6条に基づき、理論教育と実務教育を適切に組み合わせたものとなっていますか。	2016	○		法務研究科講義内容(シラバス)(2016年度)	年度初め
(4)	4-2-5P	【専門職】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○		法務研究科ホームページ カリキュラム http://www.law.aoyama.ac.jp/curriculum/index.html 法務研究科パンフレット(2017年度) 法科大学院要覧(2016年度) 法務研究科講義内容(シラバス)(2016年度)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部専門職大学院教務課

評価基準： 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-2-6P1	【専門職】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第3号 検証会議体:研究科教授会	【専門職】 青山学院大学大学院法務研究科主任会規程 検証会議体(法務研究科主任会)	年度初め
	4-2-6P2	【専門職】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	○			年度末

会計プロフェッション研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-2-1D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第11条第2項に基づいて編成されていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年5月27日)		年度初め
	4-2-1P	【専門職】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第11条第2項に基づいて編成されていますか。	2016	○		「2016年度青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科大学院要覧」11-14ページ	年度初め
(2)	4-2-2D	【博士後期・一貫制博士】 異なる教育機関(大学⇔大学院、大学院⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年5月27日) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め
	4-2-2P	【専門職】 異なる教育機関(大学院⇔専門職大学院、大学⇔専門職大学院等)と合同授業を実施している場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞれの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【専門職】 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に関する要綱		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-2-3D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学院設置基準第12条に基づいて講義科目と研究指導科目を適切に組み合わせたものになっていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年5月27日)	「プロフェッショナル会計学専攻博士後期課程案内2016」4頁 http://www.gspa.aoyama.ac.jp/admission/pdf/16doctor-annai.pdf 確認日:(2016年5月27日)	年度初め
(4)	4-2-4P	【専門職】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび専門職大学院設置基準第6条に基づき、理論教育と実務教育を適切に組み合わせたものとなっていますか。	2016	○		「カリキュラムの特色」 http://www.gspa.aoyama.ac.jp/curriculum/index.html 確認日:(2016年5月27日)	年度初め
(5)	4-2-5D	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○		「プロフェッショナル会計学専攻博士後期課程案内2016」2-3頁 http://www.gspa.aoyama.ac.jp/admission/pdf/16doctor-annai.pdf 確認日:(2016年5月27日)	年度初め
	4-2-5P	【専門職】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○		「カリキュラムの特色」 http://www.gspa.aoyama.ac.jp/curriculum/index.html 確認日:(2016年5月27日)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-2-6D1	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 検証会議体: 研究科教授会		年度初め
	4-2-6P1	【専門職】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第3号 検証会議体: 研究科教授会		年度初め
	4-2-6D2	【博士後期・一貫制博士】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	○	【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第73条第1項第2号および第3号、2017年度第 3回研究科教授会協議事項5 検証会議体: 研究科教授会	【博士後期・一貫制博士】 「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016 年度自己点検評価報告書」	年度末
	4-2-6P2	【専門職】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第3号 2016年度第1回研究科教授会協議事項1、第2回研究科教 授会協議事項7、第3回研究科教授会協議事項4報告事項 2、第5回研究科教授会協議事項1、第6回研究科教授会 協議事項1、第9回研究科教授会協議事項2、第10回研究 科教授会協議事項3、第11回研究科教授会協議事項1、 第12回研究科教授会協議事項1および3、第13回研究科 教授会協議事項3、第14回研究科教授会協議事項1、第 15回研究科教授会協議事項3、第16回研究科教授会協議 事項3、4および5、第17回研究科教授会協議事項2報告事 項3および5、第19回研究科教授会報告事項2、第5回研究 科教授会報告事項6、第7回研究科教授会協議事項5、第 15回研究科教授会報告事項14、2017年度第3回研究科教 授会協議事項5 検証会議体: 研究科教授会	【専門職】 「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016 年度自己点検評価報告書」 2016年度第5回教員FD研修会(2017年3月25日)	年度末

青山スタンダード教育機構

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 青山スタンダード教育機構

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-2(教育内容・方法・成果__教育課程・教育内容)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-2-1A	【青スタ】 カリキュラムはカリキュラムポリシーおよび大学 設置基準第19条第2項に基づいて編成されてい ますか。	2016	○	【青スタ】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/5/18)		年度初め
(2)	4-2-2A	【青スタ】 異なる教育機関(大学⇄大学院、大学⇄専門職大 学院、短大⇄大学等)と合同授業を実施してい る場合(※)、成績評価を区分するなど、それぞ れの教育の質を担保する工夫を行っていますか。 ※合同授業を実施していない場合は、便宜上 「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【青スタ】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/5/18) 青山学院大学学部在学生の大学院科目特別履修制度に 関する要綱		年度初め
(3)	4-2-5A	【青スタ】 カリキュラムポリシーに基づいた教育課程や教 育内容が、要覧やホームページ、案内冊子等に 明確に示されていますか。 ※科目ナンバリング等の学生の順次的・体系的 な履修への配慮を明らかにすること。	2016	○		【青スタ】 青山スタンダード科目履修ガイドVOL.9 (2016年度版) 大学ホームページ「青山スタンダード科目の特長」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/aoyamastandard/curriculum/ 確認日:(2016/5/18)	年度初め
(4)	4-2-6A1	【青スタ】 カリキュラムの適切性を検証するにあたり、会議 体(委員会等)・手続きが明文化されています か。	2016	○		【青スタ】 関連規則等 青山スタンダード教育開発センター 規則 検証会議体(青山スタンダード教育機構会議)	年度初め
	4-2-6A2	【青スタ】 カリキュラムの適切性は明文化された手続きに 従って定期的に検証され、その結果は改善につ ながっていますか。	2016	○		【青スタ】 関連規則等 青山スタンダード教育機構規則 検証会議体(青山スタンダード教育機構会議)	年度末

2016年度 自己点検・評価結果

基準4-3 教育内容・方法・成果

(教育方法等)

文学部・文学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日〕 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日〕 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(1)	4-3-1U	【学部】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【学部】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016.5.15)		年度初め
	4-3-1G	【研究科】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016.5.21)		年度初め
(2)	4-3-2U	【学部】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【学部】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2017.5.14)		年度末
	4-3-2G	【研究科】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【学部】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2017.6.4)		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日〕 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日〕 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(3)	4-3-3U1	【学部】 学部・学科において1年間に履修登録できる単 位数の上限を50単位未満に設定していますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)		年度初め
	4-3-3U2	【学部】 編入学・転学部・転学科を実施している学部・学 科において、当該学生に対して1年間に履修登 録できる単位数の上限が緩和分も含めて50単位 未満に設定されていますか。 ※編入学・転学部・転学科を実施していない学部 は便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してくだ さい。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6) 編入学、転部又は転学部・転学科(転部を伴う転学部・転 学科を含む)学生の単位認定基準及び授業科目履修細則 各学部学科の編入学、転部又は転学部・転学科(転部を 伴う転学部・転学科を含む)学生の単位認定等に関する 内規		年度初め
(4)	4-3-4G	【研究科】 各課程において研究指導および学位論文指導 があらかじめ学生に周知・公表された研究指導 計画(※)に基づいて行われましたか。 ※研究指導の方法や内容、年間スケジュールの 記載が要件	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2017年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2017.5.20) 研究指導計画どおりに研究指導を行った実績を明示した もの		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-3-6U1	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)について検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化 されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【学部】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6G1	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)について検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化 されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【研究科】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6U2	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【学部】 議題・議事録等 検証会議体:()	年度末
	4-3-6G2	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【研究科】 議題・議事録等 検証会議体:(分科会)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日〕 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日〕 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
	4-3-6U3	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:(2016.5.15)	【学部】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6G3	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()	【研究科】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6U4	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:(2017.5.14)	【学部】 関連規則等 検証会議体:()	年度末
	4-3-6G4	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:(2017.5.20)	【研究科】 関連規則等 検証会議体:(分科会)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 { 資料年度・URL・ウェブ確認日 } ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 { 資料年度・URL・ウェブ確認日 } ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(6)	4-3-8U	【学部】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1大学学則第42条の2(60単位) ※2単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課15 単位互換協定以外で大学独自に行っている単位認定の状況」確認日:(2017.5.14)		年度末
	4-3-8G	【研究科】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1 ・大学院学則第31条(10単位) ・専門職大学院学則第40条(修了要件として定める単位数の1/2未満)※法務研究科(36単位) ※2 単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○		大学院学則第31条、大学院入学前の既修得単位の認定に関する細則 確認日:(2017.6.4)	年度末
(7)	4-3-9U	【学部】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が学部レベルで組織的に行われましたか。	2016	○		全学FD委員会「授業改善のための学生アンケート」集計結果 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/kyoumu/FD_suishin/enquete2016 確認日:(2017.5.14)	年度末
	4-3-9G	【研究科】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が研究科レベルで組織的に行われましたか。	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェック 可能時期
(8)	4-3-10U1	【学部】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-3-10G1	【研究科】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 責任主体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-3-10U2	【学部】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従っ て定期的に検証され、その結果は改善につな がっていますか。	2016	×	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-3-10G2	【研究科】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従っ て定期的に検証され、その結果は改善につな がっていますか。	2016	×	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

教育人間科学部・教育人間科学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 4-3（教育内容・方法・成果_教育方法）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(1)	4-3-1U	【学部】 教育目標（ディプロマポリシーを含む）を達成するために必要となる教育方法（※）が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	×	【学部】 大学ホームページ「シラバス（講義内容検索）」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日：（2016/5/5）		年度初め
	4-3-1G	【研究科】 教育目標（ディプロマポリシーを含む）を達成するために必要となる教育方法（※）が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「シラバス（講義内容検索）」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日：（2016.05.07）		年度初め
(2)	4-3-2U	【学部】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法（※）が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○		【学部】 大学ホームページ「シラバス（講義内容検索）」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日：（2017/06/03）	年度末
	4-3-2G	【研究科】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法（※）が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「シラバス（講義内容検索）」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日：（2017.5.30）		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 4-3（教育内容・方法・成果_教育方法）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(3)	4-3-3U1	【学部】 学部・学科において1年間に履修登録できる 単位数の上限を50単位未満に設定していま すか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日：(2016/4/6)		年度初め
	4-3-3U2	【学部】 編入学・転学部・転学科を実施している学 部・学科において、当該学生に対して1年間 に履修登録できる単位数の上限が緩和分も含 めて50単位未満に設定されていますか。 ※編入学・転学部・転学科を実施していない 学部は便宜上「○」とし、備考欄にその旨記 載してください。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日：(2016/4/6) 編入学、転部又は転学部・転学科(転部を伴う転学部・転 学科を含む)学生の単位認定基準及び授業科目履修細則 各学部学科の編入学、転部又は転学部・転学科(転部を 伴う転学部・転学科を含む)学生の単位認定等に関する内 規		年度初め
(4)	4-3-4G	【研究科】 各課程において研究指導および学位論文指導 があらかじめ学生に周知・公表された研究指 導計画(※)に基づいて行われましたか。 ※研究指導の方法や内容、年間スケジュール の記載が要件	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日：(2017.5.30)		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 4-3（教育内容・方法・成果_教育方法）

SG	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(5)	4-3-6U1	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)について検証 するにあたり、会議体(委員会等)・手続き が明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×			年度初め
	4-3-6G1	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)について検証 するにあたり、会議体(委員会等)・手続き が明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×			年度初め
	4-3-6U2	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化され た手続きに従って定期的に検証され、その結 果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○		【学部】 第19回教育人間科学部教授会資料(2017年3月 10日開催)	年度末
	4-3-6G2	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化され た手続きに従って定期的に検証され、その結 果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○		【研究科】 第19回教育人間科学部教授会資料(2017年3月 10日開催)	年度末
	4-3-6U3	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかど うかを検証するにあたり、会議体(委員会 等)・手続きが明文化されていますか。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケ ート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日：(2016/5/5)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 4-3（教育内容・方法・成果_教育方法）

SG	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
	4-3-6G3	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体（委員会等）・手続きが明文化されていますか。	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日：(2016.05.07)		年度初め
	4-3-6U4	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日：(2017/06/03)	【学部】 第19回教育人間科学部教授会資料（2017年3月10日開催）	年度末
	4-3-6G4	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日：(2017.5.30)	【研究科】 第19回教育人間科学部教授会資料（2017年3月10日開催）	年度末
(6)	4-3-8U	【学部】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準（※1）に従って、適切に実施されていますか（※2）。 ※1大学学則第42条の2（60単位） ※2単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課15 単位互換協定以外で大学独自に行っている単位認定の状況」	教育学科・心理学科とも編入学者に対する単位認定の内規あり	年度末
	4-3-8G	【研究科】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準（※1）に従って、適切に実施されていますか（※2）。 ※1 ・大学院学則第31条（10単位） ・専門職大学院学則第40条（修了要件として定める単位数の1/2未満）※法務研究科（36単位） ※2 単位認定の基準を明確にしていること。	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 4-3（教育内容・方法・成果_教育方法）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(7)	4-3-9U	【学部】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が学部レベルで組織的に行われましたか。	2016	○		第18回教育人間科学部教授会資料 (2017. 2. 20)	年度末
	4-3-9G	【研究科】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が研究科レベルで組織的に行われましたか。	2016	○		第19回教育人間科学部教授会資料 (2017年3月10日開催)	年度末
(8)	4-3-10U1	【学部】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会		年度初め
	4-3-10G1	【研究科】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 責任主体:研究科教授会		年度初め
	4-3-10U2	【学部】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【学部】 第18回教育人間科学部教授会資料(2017/02/20) 検証会議体:教授会	【学部】 第19回教育人間科学部教授会資料(2017年3月10日開催)	年度末
	4-3-10G2	【研究科】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第19回教育人間科学部教授会資料(2017年3月10日開催)	年度末

経済学部・経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-3-1U	【学部】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【学部】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016/6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-3-1G	【研究科】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016/ 6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
(2)	4-3-2U	【学部】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	確認日2017/5/10	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	4-3-2G	【研究科】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	確認日2017/5/10	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-3-3U1	【学部】 学部・学科において1年間に履修登録できる単 位数の上限を50単位未満に設定していますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-3-3U2	【学部】 編入学・転学部・転学科を実施している学部・学 科において、当該学生に対して1年間に履修登 録できる単位数の上限が緩和分も含めて50単位 未満に設定されていますか。 ※編入学・転学部・転学科を実施していない学部 は便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してくだ さい。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6) 編入学、転部又は転学部・転学科(転部を伴う転学部・転 学科を含む)学生の単位認定基準及び授業科目履修細則 各学部学科の編入学、転部又は転学部・転学科(転部を 伴う転学部・転学科を含む)学生の単位認定等に関する内 規	6/8学部自己点検委員会	年度初め
(4)	4-3-4G	【研究科】 各課程において研究指導および学位論文指導 があらかじめ学生に周知・公表された研究指導 計画(※)に基づいて行われましたか。 ※研究指導の方法や内容、年間スケジュールの 記載が要件	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (17 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2017/5/10) 研究指導計画どおりに研究指導を行った実績を明示した もの	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議 事録	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-3-6U1	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)について検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用がなされており、それが規範として確立している。	【学部】 関連規則等 検証会議体:(6/8学部自己点検委員会)	年度初め
	4-3-6G1	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)について検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用がなされており、それが規範として確立している。	【研究科】 関連規則等 検証会議体:(6/8学部自己点検委員会)	年度初め
	4-3-6U2	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	4-3-6G2	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	4-3-6U3	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:(2016/6/4)	【学部】 関連規則等 検証会議体:(6/8学部自己点検委員会)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-3-6G3	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:(2016/6/4)	【研究科】 関連規則等 検証会議体:(6/8学部自己点検委員会)	年度初め
	4-3-6U4	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:(2017/5/10)	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	4-3-6G4	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:(2017/5/10)	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
(6)	4-3-8U	【学部】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1大学学則第42条の2(60単位) ※2単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○	学内基準に基づき運用、2017/5/10確認	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	4-3-8G	【研究科】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1 ・大学院学則第31条(10単位) ・専門職大学院学則第40条(修了要件として定める単位数の1/2未満)※法務研究科(36単位) ※2 単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	4-3-9U	【学部】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が学部レベルで組織的に行われましたか。	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	4-3-9G	【研究科】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が研究科レベルで組織的に行われましたか。	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
(8)	4-3-10U1	【学部】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-3-10G1	【研究科】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 責任主体:研究科教授会	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-3-10U2	【学部】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用がなされており、それが規範として確立している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	4-3-10G2	【研究科】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟な運用がなされており、それが規範として確立している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末

法学部・法学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-3-1U	【学部】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	×	【学部】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:()		年度初め
	4-3-1G	【研究科】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:()		年度初め
(2)	4-3-2U	【学部】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	×			年度末
	4-3-2G	【研究科】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-3-3U1	【学部】 学部・学科において1年間に履修登録できる単 位数の上限を50単位未満に設定していますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)		年度初め
	4-3-3U2	【学部】 編入学・転学部・転学科を実施している学部・学 科において、当該学生に対して1年間に履修登 録できる単位数の上限が緩和分も含めて50単位 未満に設定されていますか。 ※編入学・転学部・転学科を実施していない学部 は便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してく ださい。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6) 編入学、転部又は転学部・転学科(転部を伴う転学部・転 学科を含む)学生の単位認定基準及び授業科目履修細則 各学部学科の編入学、転部又は転学部・転学科(転部を 伴う転学部・転学科を含む)学生の単位認定等に関する内 規		年度初め
(4)	4-3-4G	【研究科】 各課程において研究指導および学位論文指導 があらかじめ学生に周知・公表された研究指導 計画(※)に基づいて行われましたか。 ※研究指導の方法や内容、年間スケジュールの 記載が要件	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2017 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2017.04.01.) 研究指導計画どおりに研究指導を行った実績を明示した もの		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-3-6U1	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)について検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化 されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【学部】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6G1	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)について検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化 されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【研究科】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6U2	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【学部】 議題・議事録等 検証会議体:()	年度末
	4-3-6G2	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【研究科】 議題・議事録等 検証会議体:()	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-3-6U3	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日：()	【学部】 関連規則等 検証会議体：()	年度初め
	4-3-6G3	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日：()	【研究科】 関連規則等 検証会議体：()	年度初め
	4-3-6U4	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日：()	【学部】 関連規則等 検証会議体：()	年度末
	4-3-6G4	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日：()	【研究科】 関連規則等 検証会議体：()	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-3-8U	【学部】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1大学学則第42条の2(60単位) ※2単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課15 単位互換協定以外で大学独自に行っている単位認定の状況」		年度末
	4-3-8G	【研究科】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1 ・大学院学則第31条(10単位) ・専門職大学院学則第40条(修了要件として定める単位数の1/2未満)※法務研究科(36単位) ※2 単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○	【研究科】 大学院学則第31条		年度末
(7)	4-3-9U	【学部】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が学部レベルで組織的に行われましたか。	2016	×			年度末
	4-3-9G	【研究科】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が研究科レベルで組織的に行われましたか。	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	4-3-10U1	【学部】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-3-10G1	【研究科】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 責任主体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-3-10U2	【学部】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従っ て定期的に検証され、その結果は改善につな がっていますか。	2016	×	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-3-10G2	【研究科】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従っ て定期的に検証され、その結果は改善につな がっていますか。	2016	×	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

経営学部・経営学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-3-1U	【学部】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	×	【学部】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
	4-3-1G	【研究科】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
(2)	4-3-2U	【学部】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【学部】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2017年6月6日)		年度末
	4-3-2G	【研究科】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2017年6月6日)		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-3-3U1	【学部】 学部・学科において1年間に履修登録できる単 位数の上限を50単位未満に設定していますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016年4月6日)		年度初め
	4-3-3U2	【学部】 編入学・転学部・転学科を実施している学部・学 科において、当該学生に対して1年間に履修登 録できる単位数の上限が緩和分も含めて50単位 未満に設定されていますか。 ※編入学・転学部・転学科を実施していない学部 は便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してくだ さい。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6) 編入学、転部又は転学部・転学科(転部を伴う転学部・転 学科を含む)学生の単位認定基準及び授業科目履修細則 各学部学科の編入学、転部又は転学部・転学科(転部を 伴う転学部・転学科を含む)学生の単位認定等に関する内 規		年度初め
(4)	4-3-4G	【研究科】 各課程において研究指導および学位論文指導 があらかじめ学生に周知・公表された研究指導 計画(※)に基づいて行われましたか。 ※研究指導の方法や内容、年間スケジュールの 記載が要件	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2017年6月7日) 研究指導計画どおりに研究指導を行った実績を明示した もの		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-3-6U1	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)について検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化 されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【学部】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6G1	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)について検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化 されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【研究科】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6U2	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【学部】 議題・議事録等 検証会議体:()	年度末
	4-3-6G2	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【研究科】 議題・議事録等 検証会議体:()	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-3-6U3	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日：(2016年6月7日)	【学部】 関連規則等 検証会議体：()	年度初め
	4-3-6G3	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日：(2016年6月7日)	【研究科】 関連規則等 検証会議体：()	年度初め
	4-3-6U4	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日：(2017年6月6日)	【学部】 関連規則等 検証会議体：()	年度末
	4-3-6G4	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日：(2017年6月6日)	【研究科】 関連規則等 検証会議体：()	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-3-8U	【学部】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1大学学則第42条の2(60単位) ※2単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課15 単位互換協定以外で大学独自に行っている単位認定の状況」		年度末
	4-3-8G	【研究科】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1 ・大学院学則第31条(10単位) ・専門職大学院学則第40条(修了要件として定める単位数の1/2未満)※法務研究科(36単位) ※2 単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○	【研究科】 入学手続要項		年度末
(7)	4-3-9U	【学部】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が学部レベルで組織的に行われましたか。	2016	×			年度末
	4-3-9G	【研究科】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が研究科レベルで組織的に行われましたか。	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
経営学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	4-3-10U1	【学部】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-3-10G1	【研究科】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 責任主体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-3-10U2	【学部】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従っ て定期的に検証され、その結果は改善につな がっていますか。	2016	×	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-3-10G2	【研究科】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従っ て定期的に検証され、その結果は改善につな がっていますか。	2016	×	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

国際政治経済学部・国際政治経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-3-1U	【学部】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【学部】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016/5/17)		年度初め
	4-3-1G	【研究科】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016/5/17)		年度初め
(2)	4-3-2U	【学部】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/kyoumu/FD_suishin/enquete_top.html		年度末
	4-3-2G	【研究科】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/kyoumu/FD_suishin/enquete_top.html		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-3-3U1	【学部】 学部・学科において1年間に履修登録できる単 位数の上限を50単位未満に設定していますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)		年度初め
	4-3-3U2	【学部】 編入学・転学部・転学科を実施している学部・学 科において、当該学生に対して1年間に履修登 録できる単位数の上限が緩和分も含めて50単位 未満に設定されていますか。 ※編入学・転学部・転学科を実施していない学部 は便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してく ださい。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6) 編入学、転部又は転学部・転学科(転部を伴う転学部・転 学科を含む)学生の単位認定基準及び授業科目履修細則 各学部学科の編入学、転部又は転学部・転学科(転部を 伴う転学部・転学科を含む)学生の単位認定等に関する内 規		年度初め
(4)	4-3-4G	【研究科】 各課程において研究指導および学位論文指導 があらかじめ学生に周知・公表された研究指導 計画(※)に基づいて行われましたか。 ※研究指導の方法や内容、年間スケジュールの 記載が要件	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:() 研究指導計画どおりに研究指導を行った実績を明示した もの		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-3-6U1	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)について検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化 されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016				年度初め
	4-3-6G1	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)について検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化 されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016				年度初め
	4-3-6U2	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【学部】 議題・議事録等 検証会議体:()	年度末
	4-3-6G2	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【研究科】 議題・議事録等 検証会議体:()	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-3-6U3	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()		年度初め
	4-3-6G3	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()		年度初め
	4-3-6U4	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()	【学部】 関連規則等 検証会議体:()	年度末
	4-3-6G4	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()	【研究科】 関連規則等 検証会議体:()	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-3-8U	【学部】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1大学学則第42条の2(60単位) ※2単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課15 単位互換協定以外で大学独自に行っている単位認定の状況」	短大からの編入 2016年度第1回国際政治経済学部教授会 (2016/4/20)「協議事項11.」(学14—回収)	年度末
	4-3-8G	【研究科】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1 ・大学院学則第31条(10単位) ・専門職大学院学則第40条(修了要件として定める単位数の1/2未満)※法務研究科(36単位) ※2 単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○			年度末
(7)	4-3-9U	【学部】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が学部レベルで組織的に行われましたか。	2016	×			年度末
	4-3-9G	【研究科】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が研究科レベルで組織的に行われましたか。	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	4-3-10U1	【学部】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等:2016年5月25日付 2016年度国際政治経済学部第3回教授会協議事 項2. 左記検証会議体からの委任先:主任会 手続:2016年6月8日付2016年度第4回国際政治 経済学部・研究科主任会議題2.「青山学院大学国 際政治経済学部・研究科主任会における自己点 検・評価の 検証事項に関する手続(案)」	年度初め
	4-3-10G1	【研究科】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 責任主体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等:2016年5月25日付 2016年度国際政治経済学研究科第3回教授会協 議事項5. 左記検証会議体からの委任先:主任会 手続:2016年6月8日付2016年度第4回国際政治 経済学部・研究科主任会議題2.「青山学院大学国 際政治経済学部・研究科主任会における自己点 検・評価の 検証事項に関する手続(案)」	年度初め
	4-3-10U2	【学部】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従っ て定期的に検証され、その結果は改善につな がっていますか。	2016	○		【学部】 2016年度第17回国際政治経済学部・研究科主任 会記録議題2.「自己点検・評価の証事項に関する 回答(案)」別添参考資料2	年度末
	4-3-10G2	【研究科】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従っ て定期的に検証され、その結果は改善につな がっていますか。	2016	×			年度末

総合文化政策学部・総合文化政策学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-3-1U	【学部】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【学部】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016年4月26日)	・ラボ・アトリエ実習ガイド ・文化基礎演習ガイド ・文化演習ガイド ・英語による日本研究 I・IIシラバス	年度初め
	4-3-1G	【研究科】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016年5月31日)		年度初め
(2)	4-3-2U	【学部】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○		・ラボ・アトリエ実習ガイド ・文化基礎演習ガイド ・文化演習ガイド ・英語による日本研究 I・IIシラバス	年度末
	4-3-2G	【研究科】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○		・プロジェクト演習及び授業のシラバス	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-3-3U1	【学部】 学部・学科において1年間に履修登録できる単 位数の上限を50単位未満に設定していますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)	授業要覧 総合文化政策学部 2016年度 p12	年度初め
	4-3-3U2	【学部】 編入学・転学部・転学科を実施している学部・学 科において、当該学生に対して1年間に履修登 録できる単位数の上限が緩和分も含めて50単位 未満に設定されていますか。 ※編入学・転学部・転学科を実施していない学部 は便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してく ださい。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6) 編入学、転部又は転学部・転学科(転部を伴う転学部・転 学科を含む)学生の単位認定基準及び授業科目履修細則 各学部学科の編入学、転部又は転学部・転学科(転部を 伴う転学部・転学科を含む)学生の単位認定等に関する内 規	総合文化政策学部総合文化政策学科編入学生 の既修得単位の認定等に関する内規	年度初め
(4)	4-3-4G	【研究科】 各課程において研究指導および学位論文指導 があらかじめ学生に周知・公表された研究指導 計画(※)に基づいて行われましたか。 ※研究指導の方法や内容、年間スケジュールの 記載が要件	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2017年4月27日) 研究指導計画どおりに研究指導を行った実績を明示した もの		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-3-6U1	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)について検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化 されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【学部】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6G1	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)について検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化 されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【研究科】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6U2	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【学部】 議題・議事録等 検証会議体:()	年度末
	4-3-6G2	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【研究科】 議題・議事録等 検証会議体:()	年度末
	4-3-6U3	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどう かを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手 続きが明文化されていますか。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduat e/questionnaire.html 確認日:()	【学部】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-3-6G3	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()	【研究科】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6U4	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()	【学部】 関連規則等 検証会議体:()	年度末
	4-3-6G4	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()	【研究科】 関連規則等 検証会議体:()	年度末
(6)	4-3-8U	【学部】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1大学学則第42条の2(60単位) ※2単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課15 単位互換協定以外で大学独自に行っている単位認定の状況」		年度末
	4-3-8G	【研究科】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1 ・大学院学則第31条(10単位) ・専門職大学院学則第40条(修了要件として定める単位数の1/2未満)※法務研究科(36単位) ※2 単位認定の基準を明確にしていること。	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	4-3-9U	【学部】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が学部レベルで組織的に行われましたか。	2016	×			年度末
	4-3-9G	【研究科】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が研究科レベルで組織的に行われましたか。	2016	×			年度末
(8)	4-3-10U1	【学部】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月25日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(学部・研究科合同主任会)	年度初め
	4-3-10G1	【研究科】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 責任主体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-3-10U2	【学部】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【学部】 第●回教授会議体・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-3-10G2	【研究科】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議体・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

理工学部・理工学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会
担当部署/担当者: 学務課(相)
評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-3-1U	<p>【学部】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。</p> <p>※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態</p>	2016	○	<p>【学部】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(20160422)</p>	<p>物数:卒業研究発表会アブストラクト(20160204, 20160205) 化生:卒業研究発表会要旨集(20160204, 20160205) 電気:卒業研究抄録集2016年2月5日 機械:卒論発表会プログラムと抄録集(2016/2/18-20) 経シス:学科会議議事録(20151125) 情テク:発表会:H28.2.3,4</p>	年度初め
	4-3-1G	<p>【研究科】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。</p> <p>※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態</p>	2016	○	<p>【研究科】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(20160422)</p>	<p>基礎科学:修士論文発表会アブストラクト(20160219) 化学:修士論文発表会要旨集(20160226) 機能物質:2015年2月25日実施、2016年10月1日中間、修論は2017年2月24日予定 生命科学:修士論文発表会 要旨集(20160226) 電気電子:修士論文発表会プログラム及び予稿集2月3日(水)実施。 機械創造:修論発表会プログラムと抄録集2016/2/3/-4) 知能情報:平成28年5月11日(水議事録)発表会; H28.2.9 マネテク:コース会議議事録(20150408, 20150422, 20150916, 20150930, 20151125)</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
 理工学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-3-2U	<p>【学部】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。</p> <p>※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態</p>	2016	○		<p>物数: 専門実験問題集, 専門実験テキスト, 計測実験テキスト 化生: 化学情報処理実習, 化学基礎実験, 物理化学実験, 有機化学実験, 無機化学実験, 生体物質分析実験, 生命科学実験 I, 生命科学実験 II の各テキスト 電気: 専門実験各科目の独自テキスト, 「電気電子工学概論」: オムニバス形式の講義, 入学時の学力を調べるために、数学、物理等の基礎科目の試験(根拠資料はシラバス) 機械: 機械創造工学実験I & II テキスト 経シス: 学科会議議事録(20160727) 情テク: 実験実習科目のテキスト</p>	年度末
	4-3-2G	<p>【研究科】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。</p> <p>※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態</p>	2016	○		<p>基礎科学: 修士論文中間発表プログラム(2016/10/15) 化学: 修士論文中間報告会(20160912) 電気電子: ゼミ実施(履修要覧)に記載。中間発表は8月27日に実施(根拠資料は抄録集) 機械創造: 大学院修士中間発表会プログラム(2016/4/30) マネテク: コース会議議事録(20160727) 機能物質創成コース: コース会議第五回議事録 2017.2.20/議事録送信3.20 生命科学: 生命科学コース 修士論文中間発表要旨集(20160917) 知能情報: 修士中間発表プログラム(2016/9/17)、 修士論文中間発表会ペーパーレス要旨(2016/9/14 コース会議議事録)</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
 理工学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-3-3U1	【学部】 学部・学科において1年間に履修登録できる単 位数の上限を50単位未満に設定していますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)		年度初め
	4-3-3U2	【学部】 編入学・転学部・転学科を実施している学部・学 科において、当該学生に対して1年間に履修登 録できる単位数の上限が緩和分も含めて50単位 未満に設定されていますか。 ※編入学・転学部・転学科を実施していない学部 は便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してく ださい。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6) 編入学、転部又は転学部・転学科(転部を伴う転学部・転 学科を含む)学生の単位認定基準及び授業科目履修細則 各学部学科の編入学、転部又は転学部・転学科(転部を 伴う転学部・転学科を含む)学生の単位認定等に関する内 規		年度初め
(4)	4-3-4G	【研究科】 各課程において研究指導および学位論文指導 があらかじめ学生に周知・公表された研究指導 計画(※)に基づいて行われましたか。 ※研究指導の方法や内容、年間スケジュールの 記載が要件	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2017年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日 2017年5月15日 研究指導計画どおりに研究指導を行った実績を明示した もの	基礎科学: × 2017/04/19 化学: 2017/05/15 2016年7月18日コース会議メモ 機能物質創成コース: コース会議第五回議事録 生命科学: シラバス コース会議議事録 2016年4月27日、 コース会議議事録 2016年11月28日 電気: 電気: 第10回 平成28年9月14日 協議事項 (2)卒業研究・修士論文の認定基準および手続き について 機械創造: 2016年度修士論文審査日程および手 順(2016/5/11) 知能情報: コース会議議事録(2016/6/22、 2017/2/17) 経シス: 2016年度マネジメントテクノロジーコース 修士論文審査日程コース会議議事録(20160706)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
 理工学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-3-6U1	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)について検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○		2015年10月21日 第5回全学教務委員会議事録	年度初め
	4-3-6G1	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)について検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○		2015年10月21日 第5回全学教務委員会議事録	年度初め
	4-3-6U2	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○		第5回教務委員会議事録 2016年10月19日 物数:× 化生:× 電気:× 機械:× 経シス:× 情テク:×	年度末
	4-3-6G2	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○		第13回専攻コース教務主任会議事録 2016年10月16日 機能物質:2017年2月20日コース会議議事録 生命科学:2015年5月12日監査用講義内容ファイル、2016年2月13日保存用講義内容ファイル 基礎科学:× 化学:× 電気電子:× 機械創造:× 知能情報:× マネテク:×	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会
担当部署/担当者: 学務課(相)
評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-3-6U3	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:(20160422)	物数:× 化生:× 電気:× 機械:学科会議議事録(第11回2014/10/1回覧決定, 第13回2016/10/14協議) 経シス:学科会議議事録(20150624) 情テク:×	年度初め
	4-3-6G3	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()	基礎科学:× 化学:× 機能物質:× 生命科学:× 電気電子:× 機械創造:学科会議議事録(第5回2015/6/24, 第13回2015/10/14協議) 知能情報:× マネテク:コース会議議事録(20150624)	年度初め
	4-3-6U4	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日 2017年5月29日	物数:×2017/04/19 電気:× 機械:第8回教室会議メモ2016/9/28 経シス:学科会議議事録(20161109) 情テク:× 化生:×(新しい講義は学科会議議事録(20160113))	年度末
	4-3-6G4	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日 2017年5月29日	基礎科学:コース会議議事録 2017/02/17: 2017/04/19 化学:× 電気:× 機械:第8回教室会議メモ2016/9/28 マネテク:コース会議議事録(20161109) 知能情報:× 機能物質:コース会議2017.2.20/議事録送信3.20 知能情報:×	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会
担当部署/担当者: 学務課(相)
評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-3-8U	【学部】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1大学学則第42条の2(60単位) ※2単位認定の基準を明確にしていること。	2016	×	【学部】 大学資料集「教務課15 単位互換協定以外で大学独自に行っている単位認定の状況」	物数:該当なし? 化生:実施していない 電気:該当無し 機械:× 該当なし 経シス:学科会議議事録(20170310) 情テク:× 該当なし	年度末
	4-3-8G	【研究科】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1 ・大学院学則第31条(10単位) ・専門職大学院学則第40条(修了要件として定める単位数の1/2未満)※法務研究科(36単位) ※2 単位認定の基準を明確にしていること。	2016	×		基礎科学:該当無し、コース会議議事録 2017/02/17 化学:該当しない 機能物質創成: 生命科学:該当なし 電気:該当無し 機械:該当無し 情テク:× 知能情報:該当なし 経シス:コース会議議事録(20170310)	年度末
(7)	4-3-9U	【学部】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が学部レベルで組織的に行われましたか。	2016	×		物数: 化生: 電気: 機械: 経シス: 情テク:	年度末
	4-3-9G	【研究科】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が研究科レベルで組織的に行われましたか。	2016	×		基礎科学:特になし 化学:授業アンケート 7月、1月 結果9月、3月 機能物質:コース会議第五回議事録 2017.2.20/ 議事録送信3.20 生命科学: 電気電子: 機械創造: 知能情報: マネテク:	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会
担当部署/担当者: 学務課(相)
評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	4-3-10U1	【学部】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年4月20日付承認 左記検証会議体からの委任先 :教務委員会, 学科会議	年度初め
	4-3-10G1	【研究科】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 責任主体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月11日付承認 左記検証会議体からの委任先 :専攻コース教務主任会, コース会議	年度初め
	4-3-10U2	【学部】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従っ て定期的に検証され、その結果は改善につな がっていますか。	2016	×	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会	物数:× 化生:2016年11月30日学科会議議事録 電気:第5回 平成28年6月8日、第10回 平成28年9 月14日 機械: 経シス:学科会議議事録(20161109 情テク:学科会議議事録(2016/12/14)	年度末
	4-3-10G2	【研究科】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従っ て定期的に検証され、その結果は改善につな がっていますか。	2016	×	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第8回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	基礎科学:コース会議議事録 2017/02/17 化学:2016年11月17日コース会議メモ 機能物質:コース会議第五回議事録 2017.2.20/ 議事録送信3.20 生命科学:コース会議議事録 2016年4月27日、 コース会議議事録 2016年11月28日 電気:第5回 平成28年6月8日、第10回 平成28年9 月14日、第15回 平成28年11月30日 機械創造: 知能情報:× マネテク:学科会議議事録(20161109)	年度末

社会情報学部・社会情報学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-3-1U	【学部】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【学部】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016.5.14)	http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016.5.14)	年度初め
	4-3-1G	【研究科】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016.5.17)		年度初め
(2)	4-3-2U	【学部】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【学部】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2017.6.1.)	【学部】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2017.5.15)	年度末
	4-3-2G	【研究科】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 授業改善のための学生アンケート http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:(2017.6.1.)	大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2017.4.29)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-3-3U1	【学部】 学部・学科において1年間に履修登録できる単 位数の上限を50単位未満に設定していますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)		年度初め
	4-3-3U2	【学部】 編入学・転学部・転学科を実施している学部・学 科において、当該学生に対して1年間に履修登 録できる単位数の上限が緩和分も含めて50単位 未満に設定されていますか。 ※編入学・転学部・転学科を実施していない学部 は便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してくだ さい。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6) 編入学、転部又は転学部・転学科(転部を伴う転学部・転 学科を含む)学生の単位認定基準及び授業科目履修細則 各学部学科の編入学、転部又は転学部・転学科(転部を 伴う転学部・転学科を含む)学生の単位認定等に関する内 規		年度初め
(4)	4-3-4G	【研究科】 各課程において研究指導および学位論文指導 があらかじめ学生に周知・公表された研究指導 計画(※)に基づいて行われましたか。 ※研究指導の方法や内容、年間スケジュールの 記載が要件	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2017.4.29) 研究指導計画どおりに研究指導を行った実績を明示した もの		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-3-6U1	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)について検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【学部】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6G1	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)について検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【研究科】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6U2	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○	【学部】 「講義内容入稿手順書」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/kyweb/manual/manual/kouginaiyousyllabus_manual.pdf 確認日:(2017.5.15.)	【学部】 議題・議事録等 検証会議体:(教務委員会)	年度末
	4-3-6G2	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【研究科】 「講義内容入稿手順書」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/kyweb/manual/manual/kouginaiyousyllabus_manual.pdf 確認日:(2017.4.29.)	【研究科】 議題・議事録等 検証会議体:()	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-3-6U3	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()	【学部】 関連規則等 検証会議体:(主任会)2015.6.9 検証会議体:(ベネッセによる調査報告会) 2015.7.22	年度初め
	4-3-6G3	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()	【研究科】 関連規則等 検証会議体:(主任会)2015.6.9 検証会議体:(ベネッセによる調査報告会) 2015.7.22	年度初め
	4-3-6U4	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:(2017.5.15)	【学部】 関連規則等 検証会議体:()	年度末
	4-3-6G4	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:(2017.4.29)	【研究科】 関連規則等 検証会議体:()	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-3-8U	【学部】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1大学学則第42条の2(60単位) ※2単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課15 単位互換協定以外で大学独自に行っている単位認定の状況」		年度末
	4-3-8G	【研究科】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1 ・大学院学則第31条(10単位) ・専門職大学院学則第40条(修了要件として定める単位数の1/2未満)※法務研究科(36単位) ※2 単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○	2016(平成28)年度第1回大学院社会情報学研究科教授会	2016(平成28)年度第1回大学院社会情報学研究科教授会	年度末
(7)	4-3-9U	【学部】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が学部レベルで組織的に行われましたか。	2016	○	FD合宿 (2017..3.12、13)	FD合宿 (2017..3.12、13)	年度末
	4-3-9G	【研究科】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が研究科レベルで組織的に行われましたか。	2016	○	FD合宿 (2017..3.12、13)	FD合宿 (2017..3.12、13)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	4-3-10U1	【学部】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-3-10G1	【研究科】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 責任主体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-3-10U2	【学部】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従っ て定期的に検証され、その結果は改善につな がっていますか。	2016	○	【学部】 第16回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	4-3-10G2	【研究科】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従っ て定期的に検証され、その結果は改善につな がっていますか。	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第16回教授会議題・議事録等 検証会議体:学部教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

地球社会共生学部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-3-1U	【学部】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【学部】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016/05/13)	「地球社会共生学部 留学ガイド」(2016年度) 「フィールドスタディガイド」(2016年度)	年度初め
(2)	4-3-2U	【学部】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○		大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2017/04/22)	年度末
(3)	4-3-3U1	【学部】 学部・学科において1年間に履修登録できる単位数の上限を50単位未満に設定していますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)		年度初め
	4-3-3U2	【学部】 編入学・転学部・転学科を実施している学部・学科において、当該学生に対して1年間に履修登録できる単位数の上限が緩和分も含めて50単位未満に設定されていますか。 ※編入学・転学部・転学科を実施していない学部は便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6) 編入学、転部又は転学部・転学科(転部を伴う転学部・転学科を含む)学生の単位認定基準及び授業科目履修細則各学部学科の編入学、転部又は転学部・転学科(転部を伴う転学部・転学科を含む)学生の単位認定等に関する内規		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	4-3-6U1	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)について検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化 されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【学部】 関連規則等 検証会議体:(なし)	年度初め
	4-3-6U2	【学部】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された 手続きに従って定期的に検証され、その結果は 改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○		【学部】 関連規則等 検証会議体:(教務委員会) 「自己点検評価検証作業について(案)」 (2016/12/14)	年度末
	4-3-6U3	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどう かを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手 続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:(2016/05/13)	【学部】 関連規則等 検証会議体:(なし)	年度初め
	4-3-6U4	【学部】 シラバスに基づいた授業が行われているかどう かは、明文化された手続きに従って定期的に検 証され、その結果は改善につながっています か。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()	【学部】 関連規則等 検証会議体:()	年度末
(5)	4-3-8U	【学部】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基 準(※1)に従って、適切に実施されていますか (※2)。 ※1大学学則第42条の2(60単位) ※2単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課15 単位互換協定以外で大学独自 に行っている単位認定の状況」		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-3-9U	【学部】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が学部レベルで組織的に行われましたか。	2016	○		第8回教務委員会 「学部内FD委員会の設置について(案)」承認。 (2016/12/14) 第15回主任会 同、承認。(2016/12/21) 第1回FD研究会(2017年2月9日) 「日本の事例にみる、大学英語教育」実施。	年度末
(7)	4-3-10U1	【学部】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第3号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年4月20日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(教務委員会)	年度初め
	4-3-10U2	【学部】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○		【学部】 委任先議題・議事録等 第1回FD委員会(2017/01/11) 「自己点検・評価検証作業について」	年度末

国際マネジメント研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-3-1G	【研究科】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016/6/1)	研究科2016年度入学案内、研究科2016年度授業要覧 MBA Programs、2016年度大学院国際マネジメント研究科シラバス http://www.aoyamabs.jp/programs/syllabus.html	年度初め
(2)	4-3-2G	【研究科】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○		学生による授業評価アンケート、研究科2016年度入学案内、研究科2016年度授業要覧 MBA Programs、2016年度大学院国際マネジメント研究科シラバス http://www.aoyamabs.jp/programs/syllabus.html	年度末
(3)	4-3-4G	【研究科】 各課程において研究指導および学位論文指導があらかじめ学生に周知・公表された研究指導計画(※)に基づいて行われましたか。 ※研究指導の方法や内容、年間スケジュールの記載が要件	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2017/5/31) 研究指導計画どおりに研究指導を行った実績を明示したもの	研究科2017年度授業要覧 PhD/DBA Programsに明記。博士課程委員会で博士課程学生の個人別進捗状況確認シートに基づき、主査が個別学生の進捗・研究指導状況を説明し、専任教員全員で進捗・研究指導状況を共有 年に1回博士課程学生が進捗レポートを研究科長・博士課程専攻主任・主査・副査に提出	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	4-3-6G1	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)について検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○		【研究科】 関連規則等 検証会議体:(研究科長から指名を受けた教務主任ならびに他の研究科専任教員がシラバス適切性の検証を行うことを2015年10月14日開催の2015年度第8回教授会で決定。運用詳細を2016年5月25日開催の2016年度第2回教授会で決定)	年度初め
	4-3-6G2	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【研究科】 議題・議事録等 検証会議体:()	年度末
	4-3-6G3	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()	【研究科】 関連規則等 研究科学生の授業評価アンケート 検証会議体:(Performance & Development 面談などを通じて研究科長・教務主任等と面談)	年度初め
	4-3-6G4	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:(2017/5/31)	【研究科】 関連規則等 研究科学生の授業評価アンケート 検証会議体:(Performance & Development 面談などを通じて研究科長・教務主任等と面談)	年度末
(5)	4-3-8G	【研究科】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1 ・大学院学則第31条(10単位) ・専門職大学院学則第40条(修了要件として定める単位数の1/2未満)※法務研究科(36単位) ※2 単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○		専門職大学院学則第40条に従い、適切に実施	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	4-3-9G	【研究科】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が研究科レベルで組織的に行われましたか。	2016	○		【研究科】 関連規則等 研究科学生の授業評価アンケート 検証会議体: (Performance & Development 面談 等)を通じて研究科長・教務主任等と面談)	年度末
(7)	4-3-10G1	【研究科】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第3号 責任主体: 研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 責任主体: 研究科教授会	【専門職】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :() 【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	4-3-10G2	【研究科】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従っ て定期的に検証され、その結果は改善につな がっていますか。	2016	○	【専門職】 2017年度第3回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 2017年度第3回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会	【専門職】 関連規則等 研究科学生の授業評価アンケート 検証会議体: (Performance & Development 面談 等)を通じて研究科長・教務主任等と面談)	年度末

法務研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部専門職大学院教務課

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-3-1G	【研究科】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(6/9)		年度初め
(2)	4-3-2G	【研究科】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○		教育改善研究会議事録	年度末
(3)	4-3-6G1	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)について検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○		【研究科】 青山学院大学大学院法務研究科主任会規程 検証会議体(法務研究科主任会) 青山学院大学大学院法務研究科FD規定 検証会議体(FD委員会、教育改善研究会)	年度初め
	4-3-6G2	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○		【研究科】 青山学院大学大学院法務研究科主任会規程 教育改善研究会議事録	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部専門職大学院教務課

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-3-6G3	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○		【研究科】 青山学院大学大学院法務研究科FD規程 検証会議体:(FD委員会、教育改善研究会) 法務研究科「学生授業評価アンケート」(冊子体)	年度初め
	4-3-6G4	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○		【研究科】 検証会議体:(FD委員会、教育改善研究会) 法務研究科「学生授業評価アンケート」(冊子体)	年度末
(4)	4-3-8G	【研究科】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1 ・大学院学則第31条(10単位) ・専門職大学院学則第40条(修了要件として定める単位数の1/2未満)※法務研究科(36単位) ※2 単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○		法務研究科入学前の既修得単位の認定及び法学既修者の既に修得したものとみなす単位の取扱いに関する細則	年度末
(5)	4-3-9G	【研究科】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が研究科レベルで組織的に行われましたか。	2016	○		青山学院大学大学院法務研究科FD規定 教育改善研究会議事録	年度末
(6)	4-3-10G1	【研究科】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第3号 責任主体:研究科教授会	【専門職】 青山学院大学大学院法務研究科FD規程 検証会議体:(FD委員会、教育改善研究会)	年度初め
	4-3-10G2	【研究科】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○		【研究科】 青山学院大学大学院法務研究科FD規程 検証会議体:(FD委員会、教育改善研究会)	年度末

会計プロフェッション研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-3-1G	【研究科】 教育目標(ディプロマポリシーを含む)を達成するために必要となる教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016年5月27日)	同左	年度初め
(2)	4-3-2G	【研究科】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基づいた適切な教育方法(※)が実施されましたか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、ITの活用、外国語科目以外での外国語による授業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	2016年度第5回研究科教授会報告事項6、第7回研究科教授会協議事項5、第15回研究科教授会報告事項14、2017年度第3回研究科教授会協議事項4~6	「青山学院大会計プロフェッション研究科2016年度自己点検評価報告書」 2016年度第5回教員FD研修会(2017年3月25日)	年度末
(3)	4-3-4G	【研究科】 各課程において研究指導および学位論文指導があらかじめ学生に周知・公表された研究指導計画(※)に基づいて行われましたか。 ※研究指導の方法や内容、年間スケジュールの記載が要件	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度)18-19、28-29ページ外 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年5月27日)	2016年11月22日(火)中間報告会、2017年2月4日(土)口述試問を実施	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	4-3-6G1	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)について検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化 されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○		【研究科】 関連規則等 青山学院大学学則専門職大学院 学則33条、専門職大学院設置基準11条 検証会議体:(FD委員会)	年度初め
	4-3-6G2	【研究科】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	○	【研究科】 青山学院大学学則専門職大学院学則33条 2016年度第15回研究科教授会報告事項6 検証会議体:(研究科教授会)		年度末
	4-3-6G3	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどう かを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手 続きが明文化されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:(2016年5月27日)	【研究科】 関連規則等 青山学院大学学則専門職大学院 学則33条、専門職大学院設置基準11条 検証会議体:(FD委員会)	年度初め
	4-3-6G4	【研究科】 シラバスに基づいた授業が行われているかどう かは、明文化された手続きに従って定期的に検 証され、その結果は改善につながっています か。	2016	○	【研究科】 青山学院大学学則専門職大学院学則33条 2016年度第5回研究科教授会報告事項6、第7回研究科教 授会協議事項5、第15回研究科教授会報告事項14、 2017年度第3回研究科教授会協議事項5 検証会議体:(研究科教授会)	【研究科】 研究科ホームページ「授業評価アンケート」 http://www.gspa.aoyama.ac.jp/about/enquete.html 確認日:(2017年5月22日) 「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016 年度自己点検評価報告書」 2016年度第5回教員FD研修会(2017年3月25日)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-3-8G	【研究科】 既修得単位の認定は、学則に基づいた学内基準(※1)に従って、適切に実施されていますか(※2)。 ※1 ・大学院学則第31条(10単位) ・専門職大学院学則第40条(修了要件として定める単位数の1/2未満)※法務研究科(36単位) ※2 単位認定の基準を明確にしていること。	2016	○	2016年度第1回研究科教授会報告事項2		年度末
(6)	4-3-9G	【研究科】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が研究科レベルで組織的に行われましたか。	2016	○	2016年度第5回研究科教授会報告事項6、第7回研究科教授会協議事項5、第15回研究科教授会報告事項14、2017年度第3回研究科教授会協議事項5	「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016年度自己点検評価報告書」 2016年度教員FD研修会(2016年5月18日、6月1日、6月22日、7月20日、2017年3月25日)	年度末
	4-3-10G1	【研究科】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第3号 責任主体: 研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第3号 責任主体: 研究科教授会	【研究科】 関連規則等 青山学院大学学則専門職大学院学則33条、専門職大学院設置基準11条 検証会議体: (FD委員会)	年度初め
(7)	4-3-10G2	【研究科】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第3号 2016年度第5回研究科教授会報告事項6、第7回研究科教授会協議事項5、第15回研究科教授会報告事項14、2017年度第3回研究科教授会協議事項5 検証会議体: 研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第73条第1項第2号および第3号 検証会議体: 研究科教授会	「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016年度自己点検評価報告書」 2016年度第5回教員FD研修会(2017年3月25日)	年度末

青山スタンダード教育機構

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 青山スタンダード教育機構

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-3-1A	【青スタ】 ディプロマポリシーを達成するために必要となる 教育方法(※)が明らかにされていますか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、IT の活用、外国語科目以外での外国語による授 業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○	【青スタ】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016/5/18)	【青スタ】 青山スタンダード科目履修ガイドVOL.9 (2016年度版)	年度初め
(2)	4-3-2A	【青スタ】 各授業科目において、カリキュラムポリシーに基 づいた適切な教育方法(※)が実施されまし たか。 ※グループワーク、フィールドワーク、少人数、IT の活用、外国語科目以外での外国語による授 業、ゼミ形式等の実施形態	2016	○		【青スタ】 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2017/5/17)	年度末
(3)	4-3-6A1	【青スタ】 シラバスの内容の適切性(※)について検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化 されていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【青スタ】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6A2	【青スタ】 シラバスの内容の適切性(※)は明文化された手 続きに従って定期的に検証され、その結果は改 善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・単位制度の趣旨に照らした学習 ・事前事後学習 など	2016	×		【青スタ】 議題・議事録等 検証会議体:()	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 青山スタンダード教育機構

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果_教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	4-3-6A3	【青スタ】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかを検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	×	【青スタ】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()	【青スタ】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	4-3-6A4	【青スタ】 シラバスに基づいた授業が行われているかどうかは、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	【青スタ】 大学ホームページ「授業改善のための学生アンケート」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/questionnaire.html 確認日:()	【青スタ】 関連規則等 検証会議体:()	年度末
(4)	4-3-10A1	【青スタ】 教育内容・方法等を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。	2016	○		【青スタ】 関連規則等 青山スタンダード教育開発センター規則 検証会議体:(青山スタンダード教育機構会議)	年度初め
	4-3-10A2	【青スタ】 教育内容・方法は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	○		【青スタ】 関連規則等 青山スタンダード教育機構規則 検証会議体:(青山スタンダード教育機構会議)	年度末

全学FD委員会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 全学FD委員会

担当部署/担当者: 学務部、学務課(相模原)

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-3-9W	【大学全体】 教育内容・方法等の改善を図ることを目的としたFD活動が学部・研究科を含む全学的なレベルで組織的に行われましたか。	2016	○	【大学全体】 授業改善アンケート、研修会要項など 大学資料集「教育支援課1 授業アンケート実施率」 大学資料集「教育支援課2 学内公募による「教育改善支援制度」採択者」		年度末

全学教務委員会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 全学教務委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-3(教育内容・方法・成果__教育方法)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-3-5W	【大学全体】 授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスが、統一した書式を用いて作成され、かつ、学生にあらかじめ公表されていますか。	2016	○	【大学全体】 シラバス入稿マニュアル 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016/5/18)		年度初め
(2)	4-3-7W	【大学全体】 単位が授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って(※)設定されていますか。 ※学修時間の確保 など	2016	○	【大学全体】 学事暦 シラバス入稿マニュアル 大学ホームページ「シラバス(講義内容検索)」 http://syllabus.aoyama.ac.jp/ 確認日:(2016/5/18)		年度初め

2016年度 自己点検・評価結果

基準4-4 教育内容・方法・成果

(成果)

文学部・文学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(1)	4-4-1U	【学部】 学部において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	×			年度末
	4-4-1G	【研究科】 研究科(課程ごと)において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	×			年度末
(2)	4-4-2U	【学部】 卒業の具体的な要件が授業要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)		年度初め
	4-4-2G	【研究科】 修了の具体的な要件が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/4/6)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(3)	4-4-3G	【研究科】 学位授与にあたり論文審査を行う場合、具体的 な学位論文審査基準が大学院要覧等によって あらかじめ学生に示されていますか。 ※論文審査を行わない場合は、便宜上「○」と し、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016.5.21)		年度初め
	4-4-3M	【修士・博士前期】 学位授与にあたり、特定課題を課している課程 については(※)、その具体的な審査基準を設 け、大学院要覧等であらかじめ学生に明示して いますか。 ※特定課題による学位授与を行っていない場合 は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載して ください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016.5.30)		年度初め
(4)	4-4-4D	【博士後期・一貫制博士】 博士後期課程・一貫制博士課程を最長在学年 限内に退学した者に対し学位を授与する場合、 大学院学位規則第8条3項の規定に則り行われ ましたか。	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-4-5U1	【学部】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号 責任主体:教授会	なし	年度初め
	4-4-5G1	【研究科】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号 責任主体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学位規則第3章 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審査委員会	なし	年度初め
	4-4-5U2	【学部】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【学部】 文学部第19回(2017.3.10)教授会議題・議事録 責任主体:教授会	なし	年度末
	4-4-5G2	【研究科】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【修士・博士前期】 第10回(2017.3.10)文学研究科教授会議題・議事録等 責任主体:文学研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 第3回(2016.11.30)、第4回(2016.12.7)、第5回(2017.1.18)議 題・議事録等 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審査委員会	なし	年度末

教育人間科学部・教育人間科学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 4-4（教育内容・方法・成果__成果）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(1)	4-4-1U	【学部】 学部において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	○		第19回教育人間科学部教授会（2016年3月10日）資料	年度末
	4-4-1G	【研究科】 研究科（課程ごと）において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	○		第19回教育人間科学部教授会（2016年3月10日）資料	年度末
(2)	4-4-2U	【学部】 卒業の具体的な要件が授業要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧（履修ガイド）」 （ 2016年度） http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日：（ 2016/4/6 ）		年度初め
	4-4-2G	【研究科】 修了の具体的な要件が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 （ 2016年度） http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日：（ 2016/4/6 ）		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 4-4（教育内容・方法・成果__成果）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(3)	4-4-3G	【研究科】 学位授与にあたり論文審査を行う場合、具体的な学位論文審査基準が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。 ※論文審査を行わない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日：(2016.05.07)		年度初め
	4-4-3M	【修士・博士前期】 学位授与にあたり、特定課題を課している課程については(※)、その具体的な審査基準を設け、大学院要覧等であらかじめ学生に明示していますか。 ※特定課題による学位授与を行っていない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日：(2016.05.07)		年度初め
(4)	4-4-4D	【博士後期・一貫制博士】 博士後期課程・一貫制博士課程を最長在学年限内に退学した者に対し学位を授与する場合、大学院学位規則第8条3項の規定に則り行われましたか。	2016	○			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 4-4（教育内容・方法・成果__成果）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(5)	4-4-5U1	【学部】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続 きの明文化が図られていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号 責任主体:教授会		年度初め
	4-4-5G1	【研究科】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続 きの明文化が図られていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号 責任主体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学位規則第3章 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士 論文審査委員会		年度初め
	4-4-5U2	【学部】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された 手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 責任主体:教授会	なし	年度末
	4-4-5G2	【研究科】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された 手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【修士・博士前期】 第●回研究科教授会議題・議事録等 責任主体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 第●回議題・議事録等 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士 論文審査委員会	なし	年度末

経済学部・経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-4-1U	【学部】 学部において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	4-4-1G	【研究科】 研究科(課程ごと)において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
(2)	4-4-2U	【学部】 卒業の具体的な要件が授業要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-4-2G	【研究科】 修了の具体的な要件が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/4/6)	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-4-3G	【研究科】 学位授与にあたり論文審査を行う場合、具体的 な学位論文審査基準が大学院要覧等によって あらかじめ学生に示されていますか。 ※論文審査を行わない場合は、便宜上「○」と し、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (16 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016/6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-4-3M	【修士・博士前期】 学位授与にあたり、特定課題を課している課程 については(※)、その具体的な審査基準を設 け、大学院要覧等であらかじめ学生に明示して いますか。 ※特定課題による学位授与を行っていない場合 は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載して ください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (16 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016/6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
(4)	4-4-4D	【博士後期・一貫制博士】 博士後期課程・一貫制博士課程を最長在学年 限内に退学した者に対し学位を授与する場合、 大学院学位規則第8条3項の規定に則り行われ ましたか。	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事 録	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-4-5U1	【学部】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号 責任主体:教授会	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-4-5G1	【研究科】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号 責任主体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学位規則第3章 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審査委員会	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	4-4-5U2	【学部】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	従来からの慣行に基づき柔軟な運用が行われており、それが規範として確立している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	4-4-5G2	【研究科】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	従来からの慣行に基づき柔軟な運用が行われており、それが規範として確立している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末

法学部・法学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-4-1U	【学部】 学部において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	○	成績評価基準		年度末
	4-4-1G	【研究科】 研究科(課程ごと)において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	×			年度末
(2)	4-4-2U	【学部】 卒業の具体的な要件が授業要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)		年度初め
	4-4-2G	【研究科】 修了の具体的な要件が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/4/6)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-4-3G	【研究科】 学位授与にあたり論文審査を行う場合、具体的 な学位論文審査基準が大学院要覧等によって あらかじめ学生に示されていますか。 ※論文審査を行わない場合は、便宜上「○」と し、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:()		年度初め
	4-4-3M	【修士・博士前期】 学位授与にあたり、特定課題を課している課程 については(※)、その具体的な審査基準を設 け、大学院要覧等であらかじめ学生に明示して いますか。 ※特定課題による学位授与を行っていない場合 は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してく ださい。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:()		年度初め
(4)	4-4-4D	【博士後期・一貫制博士博士】 博士後期課程・一貫制博士博士課程を最長在 学年限内に退学した者に対し学位を授与する場 合、大学院学位規則第8条3項の規定に則り行 われましたか。	2016	○	【研究科】 大学院学位規則第8条3黄		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-4-5U1	【学部】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号 責任主体:教授会	なし	年度初め
	4-4-5G1	【研究科】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号 責任主体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学位規則第3章 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審査委員会	なし	年度初め
	4-4-5U2	【学部】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【学部】 第19回教授会議題・議事録等 責任主体:教授会	なし	年度末
	4-4-5G2	【研究科】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【修士・博士前期】 第22回研究科教授会議題・議事録等 責任主体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 第8回議題・議事録等 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審査委員会	なし	年度末

経営学部・経営学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-4-1U	【学部】 学部において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	×			年度末
	4-4-1G	【研究科】 研究科(課程ごと)において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	×			年度末
(2)	4-4-2U	【学部】 卒業の具体的な要件が授業要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016年4月6日)		年度初め
	4-4-2G	【研究科】 修了の具体的な要件が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年4月6日)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-4-3G	【研究科】 学位授与にあたり論文審査を行う場合、具体的 な学位論文審査基準が大学院要覧等によって あらかじめ学生に示されていますか。 ※論文審査を行わない場合は、便宜上「○」と し、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
	4-4-3M	【修士・博士前期】 学位授与にあたり、特定課題を課している課程 については(※)、その具体的な審査基準を設 け、大学院要覧等であらかじめ学生に明示して いますか。 ※特定課題による学位授与を行っていない場合 は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載して ください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
(4)	4-4-4D	【博士後期・一貫制博士博士】 博士後期課程・一貫制博士博士課程を最長在 学年限内に退学した者に対し学位を授与する場 合、大学院学位規則第8条3項の規定に則り行 われましたか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-4-5U1	【学部】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号 責任主体:教授会	なし	年度初め
	4-4-5G1	【研究科】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号 責任主体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学位規則第3章 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審査委員会	なし	年度初め
	4-4-5U2	【学部】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【学部】 大学学則		年度末
	4-4-5G2	【研究科】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【修士・博士前期】 第15回研究科教授会議題・議事録等 責任主体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 第4回議題・議事録等 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審査委員会	なし	年度末

国際政治経済学部・国際政治経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-4-1U	【学部】 学部において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	×			年度末
	4-4-1G	【研究科】 研究科(課程ごと)において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	×			年度末
(2)	4-4-2U	【学部】 卒業の具体的な要件が授業要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)		年度初め
	4-4-2G	【研究科】 修了の具体的な要件が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/4/6)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-4-3G	【研究科】 学位授与にあたり論文審査を行う場合、具体的 な学位論文審査基準が大学院要覧等によって あらかじめ学生に示されていますか。 ※論文審査を行わない場合は、便宜上「○」と し、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/pdf/graduate_2016.pdf 確認日:(2016/5/17)		年度初め
	4-4-3M	【修士・博士前期】 学位授与にあたり、特定課題を課している課程 については(※)、その具体的な審査基準を設 け、大学院要覧等であらかじめ学生に明示して いますか。 ※特定課題による学位授与を行っていない場合 は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載して ください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/pdf/graduate_2016.pdf 確認日:(2016/5/17)		年度初め
(4)	4-4-4D	【博士後期・一貫制博士博士】 博士後期課程・一貫制博士博士課程を最長在 学年限内に退学した者に対し学位を授与する場 合、大学院学位規則第8条3項の規定に則り行 われましたか。	2016	○			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-4-5U1	【学部】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号 責任主体:教授会	なし	年度初め
	4-4-5G1	【研究科】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号 責任主体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学位規則第3章 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審査委員会	なし	年度初め
	4-4-5U2	【学部】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○		2016年度第18回国際政治経済学部教授会 (2017/3/10)協議事項1.(学12)	年度末
	4-4-5G2	【研究科】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○		2016年度第16回国際政治経済学研究科教授会 (2017/3/10)協議事項8.(院-9)	年度末

総合文化政策学部・総合文化政策学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-4-1U	【学部】 学部において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	×			年度末
	4-4-1G	【研究科】 研究科(課程ごと)において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	×			年度末
(2)	4-4-2U	【学部】 卒業の具体的な要件が授業要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)	授業要覧 総合文化政策学部 2016年度 p12	年度初め
	4-4-2G	【研究科】 修了の具体的な要件が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/4/6)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	4-4-3G	【研究科】 学位授与にあたり論文審査を行う場合、具体的 な学位論文審査基準が大学院要覧等によって あらかじめ学生に示されていますか。 ※論文審査を行わない場合は、便宜上「○」と し、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016年5月31日)		年度初め
	4-4-3M	【修士・博士前期】 学位授与にあたり、特定課題を課している課程 については(※)、その具体的な審査基準を設 け、大学院要覧等であらかじめ学生に明示して いますか。 ※特定課題による学位授与を行っていない場合 は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載して ください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016年5月31日)		年度初め
(4)	4-4-4D	【博士後期・一貫制博士博士】 博士後期課程・一貫制博士博士課程を最長在 学年限内に退学した者に対し学位を授与する場 合、大学院学位規則第8条3項の規定に則り行 われましたか。	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-4-5U1	【学部】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号 責任主体:教授会	授業要覧 総合文化政策学部 2016年度 p12 (2)学位について	年度初め
	4-4-5G1	【研究科】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号 責任主体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学位規則第3章 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審査委員会		年度初め
	4-4-5U2	【学部】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【学部】 第19回教授会議題・議事録等 責任主体:教授会	なし	年度末
	4-4-5G2	【研究科】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【修士・博士前期】 第11回研究科教授会議題・議事録等 責任主体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 第11回議題・議事録等 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審査委員会	なし	年度末

理工学部・理工学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会
担当部署/担当者: 学務課(相)
評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-4-1U	<p>【学部】 学部において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。</p> <p>※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。</p>	2016	○		<p>物数:実力テスト2017/01/12 卒業研究中間発表優秀者表彰(卒業式時)卒業研究優秀賞表彰(卒業式時)</p> <p>化生:実力試験(2016/04/09)、学業成績優秀者表彰制度(2016/03/11候補者の決定)</p> <p>電気:実力試験を実施(11月19日実施、掲示資料)、第17回 平成28年12月21日 協議事項(2)実力試験結果に関する協議</p> <p>機械:第11回教室会議メモ2016/11/9</p> <p>経シス:実力テスト(2017/1/12)に関する議論 学科会議議事録(2016/7/6)</p> <p>情テク:実力試験(2016/11/19)</p>	年度末
	4-4-1G	<p>【研究科】 研究科(課程ごと)において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。</p> <p>※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。</p>	2016	○		<p>基礎科学:コース中間発表会発表評価(2016/10/15), 薦田先端学術賞候補者推薦(2017/02/02), 日本学生支援機構奨学金返還免除候補者(2017/02/17)大学院学位授与式総代の候補者推薦(2017/03/10)</p> <p>化学:青山学院大学大学院給付奨学生(2016/04), 薦田先端学術賞(2016/04), 日本学生支援機構奨学金返還免除候補者(2017/02/24)</p> <p>電気:第18回 平成29年1月11日 報告事項(9)大学院教務主任会報告 ○薦田先端学術賞候補者選定</p> <p>機械:第11回教室会議メモ2016/11/9</p> <p>マネテク:実力試験なし, 修論中間発表会評価シート(学科会議議事録 2016/9/28)</p> <p>機能物質:最先端機能物質セミナーのレポート評価。中間発表と修士発表の複数教員審査(2016/10/22), 薦田先端学術賞候補者推薦(2017/02/20), 日本学生支援機構奨学金返還免除候補者(2017/02/20)</p> <p>生命科学:薦田先端学術賞(20170128),日本学生支援機構奨学金返還免除候補者(20170224)</p> <p>知能情報:中間発表会(2016/9/17)、最終発表評価 (https://lms.it.aoyama.ac.jp/course/view.php?id=382)</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	4-4-2U	【学部】 卒業の具体的な要件が授業要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)		年度初め
	4-4-2G	【研究科】 修了の具体的な要件が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/4/6)		年度初め
(3)	4-4-3G	【研究科】 学位授与にあたり論文審査を行う場合、具体的な学位論文審査基準が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。 ※論文審査を行わない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(20160422)		年度初め
	4-4-3M	【修士・博士前期】 学位授与にあたり、特定課題を課している課程については(※)、その具体的な審査基準を設け、大学院要覧等であらかじめ学生に明示していますか。 ※特定課題による学位授与を行っていない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(20160422)		年度初め
(4)	4-4-4D	【博士後期・一貫制博士】 博士後期課程・一貫制博士課程を最長在学年限内に退学した者に対し学位を授与する場合、大学院学位規則第8条3項の規定に則り行われましたか。	2016	○		基礎科学:対象者なし 化学:対象者なし 電気:対象者無し? 機械:第14回教室会議メモ2017/1/11 マネテク:「対象者なし」 機能物質:対象者なし 生命科学:対象者なし 知能情報:該当なし	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会
担当部署/担当者: 学務課(相)
評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	4-4-5U1	【学部】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号 責任主体:教授会		年度初め
	4-4-5G1	【研究科】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号 責任主体:研究科教授会 【博士後期・一貫制】 大学院学位規則第3章 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審査委員会		年度初め
	4-4-5U2	【学部】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 責任主体:教授会	2017年3月10日 第17回教授会議事録	年度末
	4-4-5G2	【研究科】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号 研究科教授会議事録 【博士後期・一貫制】 大学院学位規則第3章 博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審査委員会 議事録	2017年3月11日 大学院委員会 2017年3月10日 研究科教授会議事録	年度末

社会情報学部・社会情報学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務課（相）
 評価基準： 4-4（教育内容・方法・成果__成果）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 {・会議開催日 等を記入}	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 {・会議開催日 等を記入}	チェック 可能時期
(1)	4-4-1U	【学部】 学部において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	○			年度末
	4-4-1G	【研究科】 研究科（課程ごと）において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	○			年度末
(2)	4-4-2U	【学部】 卒業の具体的な要件が授業要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧（履修ガイド）」 （ 2016年度） http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日：（ 2016/4/6 ）		年度初め
	4-4-2G	【研究科】 修了の具体的な要件が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 （ 2016年度） http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日：（ 2016/4/6 ）		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務課（相）
 評価基準： 4-4（教育内容・方法・成果__成果）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 {・会議開催日 等を記入}	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 {・会議開催日 等を記入}	チェック 可能時期
(3)	4-4-3G	<p>【研究科】 学位授与にあたり論文審査を行う場合、具体的な学位論文審査基準が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。</p> <p>※論文審査を行わない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。</p>	2016	○	<p>【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 （ 2016 年度） https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/kyoumu/daigakuin_youran(shakaijouhou)2016.pdf 確認日：（ 2016.5.17 ）</p>		年度初め
	4-4-3M	<p>【修士・博士前期】 学位授与にあたり、特定課題を課している課程については（※）、その具体的な審査基準を設け、大学院要覧等であらかじめ学生に明示していますか。</p> <p>※特定課題による学位授与を行っていない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。</p>	2016	○	<p>【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧（履修ガイド）」 （ 2016 年度） https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/kyoumu/daigakuin_youran(shakaijouhou)2016.pdf 確認日：（ 2016.5.17 ）</p>		年度初め
(4)	4-4-4D	<p>【博士後期・一貫制博士博士】 博士後期課程・一貫制博士博士課程を最長在学年限内に退学した者に対し学位を授与する場合、大学院学位規則第8条3項の規定に則り行われましたか。</p>	2016	○		該当者なし	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務課（相）
 評価基準： 4-4（教育内容・方法・成果__成果）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(5)	4-4-5U1	【学部】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号 責任主体:教授会	第21回 教授会記録(2016.03.10)	年度初め
	4-4-5G1	【研究科】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第69条第1項第2号 責任主体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学位規則第3章 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審査委員会		年度初め
	4-4-5U2	【学部】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【学部】 第21回教授会議題・議事録等 責任主体:教授会	なし	年度末
	4-4-5G2	【研究科】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【修士・博士前期】 第14回研究科教授会議題・議事録等 責任主体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 第●回議題・議事録等 責任主体:博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審査委員会	第14回 教授会記録(2017.03.09) 博士後期は該当者なし	年度末

地球社会共生学部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(1)	4-4-1U	【学部】 学部において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	○		英語の試験(TOEICスコア)で学生の学習成果を測定した。	年度末
(2)	4-4-2U	【学部】 卒業の具体的な要件が授業要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/4/6)		年度初め
(3)	4-4-5U1	【学部】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第2号 責任主体:教授会	なし	年度初め
	4-4-5U2	【学部】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	×	【学部】 第●回教授会議議事録・議事録等 責任主体:教授会	なし	年度末

国際マネジメント研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-4-1G	【研究科】 研究科(課程ごと)において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	○	【研究科】 2017年度第3回教授会議議事録	【研究科】 2017年度第2回国際マネジメント研究科議事録 委任に関する申し合わせ等 :2017年5月24日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会)	年度末
(2)	4-4-2G	【研究科】 修了の具体的な要件が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/6/3)	研究科2016年度授業要覧 MBA Programs 研究科2016年度授業要覧 PhD/DBA Programs	年度初め
(3)	4-4-3G	【研究科】 学位授与にあたり論文審査を行う場合、具体的な学位論文審査基準が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。 ※論文審査を行わない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/6/3)	研究科2016年度授業要覧 MBA Programs, 研究科2016年度授業要覧 Ph.D/DBA Programs	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	4-4-4D	【博士後期・一貫制博士】 博士後期課程・一貫制博士課程を最長在学年 限内に退学した者に対し学位を授与する場合、 大学院学位規則第8条3項の規定に則り行われ ましたか。	2016	×		該当者なし	年度末
(5)	4-4-5G1	【研究科】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続き の明文化が図られていますか。	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第2号 責任主体: 研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学位規則第3章 責任主体: 博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審 査委員会	研究科2016年度授業要覧 MBA Programs 研 究科2016年度授業要覧 PhD/DBA Programs	年度初め
	4-4-5G2	【研究科】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手 続きに従って授与されましたか。	2016	○	【専門職】 2017年度第3回研究科教授会議題・議事録等 責任主体: 研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 2017年度第3回議題・議事録等 責任主体: 博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士論文審 査委員会	研究科2016年度授業要覧 MBA Programs 研究 科2016年度授業要覧 PhD/DBA Programs 2015 年度第2回、2016年度第6回・第8回・第9回博士課 程委員会で議論	年度末

法務研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部専門職大学院教務課

評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-4-1G	【研究科】 研究科(課程ごと)において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連している	2016	○		青山学院大学大学院法務研究科FD規定 教育改善研究会議事録	年度末
(2)	4-4-2G	【研究科】 修了の具体的な要件が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○		法務研究科パンフレット(2017年度) 法務研究科ホームページ http://www.law.aoyama.ac.jp/curriculum/index.html	年度初め
(4)	4-4-5G1	【研究科】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続きの明文化が図られていますか。	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第2号 責任主体: 研究科教授会	なし	年度初め
	4-4-5G2	【研究科】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手続きに従って授与されましたか。	2016	○	【専門職】 第18回研究科教授会議議事録 責任主体: 研究科教授会		年度末

会計プロフェッション研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-4-1G	【研究科】 研究科(課程ごと)において、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発に努めましたか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連していること。	2016	×			年度末
(2)	4-4-2G	【研究科】 修了の具体的な要件が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 () 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:()	2016年度 会計プロフェッション研究科「大学院要覧」8-9頁(専門職学位課程)、31頁(博士後期課程)	年度初め
(3)	4-4-3G	【研究科】 学位授与にあたり論文審査を行う場合、具体的な学位論文審査基準が大学院要覧等によってあらかじめ学生に示されていますか。 ※論文審査を行わない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「大学院要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:()	2016年度 会計プロフェッション研究科「大学院要覧」18 頁(専門職学位課程)、28頁(博士後期課程)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	4-4-4D	【博士後期・一貫制博士】 博士後期課程・一貫制博士課程を最長在学年 限内に退学した者に対し学位を授与する場合、 大学院学位規則第8条3項の規定に則り行われ ましたか。	2016	○			年度末
(5)	4-4-5G1	【研究科】 学位授与にあたり、責任体制の明確化と手続き の明文化が図られていますか。	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第2号 責任主体: 研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学位規則第3章 責任主体: 博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士 論文審査委員会		年度初め
	4-4-5G2	【研究科】 学位は明確な責任体制のもとで明文化された手 続きに従って授与されましたか。	2016	○	【専門職】 青山学院大学専門職大学院学則第56条第1項第2号 2016年度第19回研究科教授会協議事項1 責任主体: 研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 青山学院大学大学院学位規則第3章 責任主体: 博士後期課程委員会/博士課程委員会、博士 論文審査委員会		年度末

青山スタンダード教育機構

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 青山スタンダード教育機構

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 4-4(教育内容・方法・成果__成果)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	4-4-1A	【青スタ】 青山スタンダード科目において、学生の学習成 果を測定するための評価指標の開発に努めまし たか。 ※ディプロマポリシーに掲げる内容に関連してい ること。	2016	×			年度末